

同志社大学経済学部 同経会

同経会報



No. 90



目次

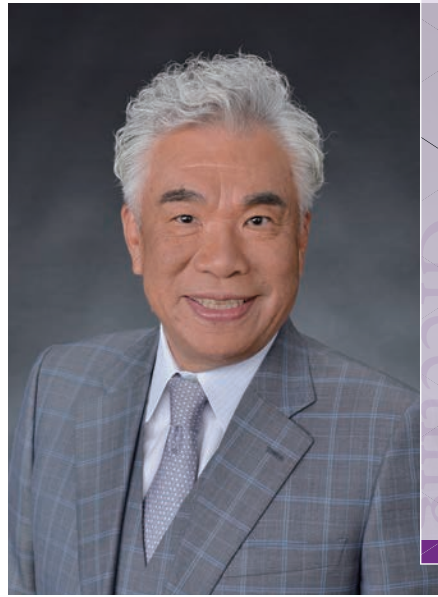
Contents

同経会会長からのご挨拶	03
経済学部部長からのご挨拶	04
特別インタビュー	05
総会・卒業生のつどい	11
大阪支部からの報告	13
東海支部からの報告	14
東京支部からの報告	15
しめた会からの報告	16
企画渉外委員会からの報告	17
同経会賞授与式と受賞者からの便り	19
海外インターシップ生からの報告	23
卒業生からの便り	31
現役学生が語る「わがゼミ」	33
退任の先生からのご挨拶	47
新任の先生からのご挨拶	49
2023年度 定時総会報告	51
企業広告と名刺広告	59
寄付へのお礼とご報告	68
2024年6月～11月のイベント案内	69
編集後記	71
同経会役員名簿	72

72 71 69 68 59 51 49 47 33 31 23 19 17 16 15 14 13 11 05 04 03

同経会会長からのご挨拶

同経会会長 田堂 哲志



1. 卒業生ならびに保護者の皆様へ

経済学部、ならびに経済学研究科を終了される皆様、このたびのご卒業を心よりお祝い申し上げます。また、コロナ禍でもお子様を支え続けられた保護者の皆様に於かれましては何よりの喜びと存じ上げます。本当におめでとうございます。

さて、卒業される皆様は今迄ご家族、社会に守られてきた訳ですが、これからは自ら世の中を守る立場となります。おおいに将来の可能性を秘めた皆さんの能力をご自分のためのみならず社会に貢献するために発揮ください。更に自分の価値を高める努力は決して怠らないでください。IT分野など限定的には即戦力と

して認知される仕事もありますが多くの分野では経験や新たな学習が必要になるからです。また社会にどれほどかかるとの分岐点があります。職場を変えたり、会社を辞めたりなど新たな環境にチャレンジするのか、そのままそこに留まって挽回を目指すのか、どの難しい判断もあります。最終的にはご自分で結論を出すしかないのですが凡そ順風満帆な人生はあるはずもなく、寧ろ失敗の経験が自分の価値を高める起点になることを信じて前に進んで頂きたい。最後に経済学部を卒業したOBOGは約4万人おり、これから生きて行くうえで様々なサポートを貰う機会が必ずあります。同経会もそうです。様々な情報提供、イベントの企画運営を通じて皆様にサポートし続けます。いつでも遠慮せずアクセスしてください。

2. 経済学部ならびに学部生の皆様へ

同経会の存在意義の一つが経済学部ならびに学部生への貢献としています。60年を超える活動の中で様々な企画を提案し運営して参りました。本年度は学生が実際の企業に様々な提案したものを実現する「学生プロジェクト」が8月から老舗菓子店「老松」様のご支援を頂戴してスタートしました。アイデアを双方で出し合つて「お汁粉」を北野天満宮の「天神市」が立つ11月25日に発売することができました。京都新聞などのメディアにも取り上げられました。また8月～9月に行われました海外インターシップ（アメリカ、マレーシア、ドイツ、中国に4名派遣）の支援を例年通りさせていただきました。3月の卒業式は昨年同様に学業優秀者に贈る「同経会賞」（5名）、のほか昨年から新たに設けた、様々な外部での研究発表で優秀な成績者に贈る「アカデミア賞」（13名）、スポーツで優秀な成績者に贈る「スポーツ賞」（5名）、

また「特別賞」（4名）を表彰致しました。そして卒業生の皆様には昨年から卒業記念品を変更しました。「銀製のスプーン」に変更したのですが、「銀製」は「食いはぐれがない」「スプーン」は「同じ釜の飯を食った仲間をいつまでも忘れない」というメッセージを込めました。今回も謹呈致しました。最後に経済学部のご理解を頂きながら引き続き貢献できる企画を実行して参ります。ご支援宜しくお願いいたします。

3. OBOGの皆様へ

同経会のもう一つの存在意義はOBOGへの貢献です。前述で卒業しても同志社との縁は切れないと申し上げましたが、それをまざまざと感じさせられたイベントがあります。それは昨年から始まった「大阪ビジネス交流会」（同経会、政法会、樹徳会共催）です。学部同士の交流、同業種（同業界）で働く同窓の交流ですが参加者は殆ど若手のOBOGでした。私を含めた同窓会役員は一切挨拶もしないし、先輩風も吹かせないし、参加費は低料金を目指した企画です。ネットのみでの募集でしたが120人もの参加者があり、今年も昨年同様ものすごく盛り上がりました。支部活動では大阪支部つどいが5月に開催され講師は近畿大学の世耕石弘氏を招き約120名が参加されました。東海支部のつどいは9月に開催され講師はサッカー解説者中西哲生氏を招き約50名が参加されました。京都支部は9月に開催され講師は藤井大丸社長の藤井健志氏を招き約90名が参加されました。東京支部つどいは11月に開催され講師はラグビーの林敏之氏を招き約70名が参加されました。7月の総会も例年以上の参加者となり徐々に活性を実感しております。この状況に甘んじることなく魅力のある企画を実行し同経会の存在価値を高めて参ります。

経済学部長からのご挨拶

経済学部長 横井和彦



4月より経済学部長に就任いたしました、横井和彦と申します。2年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて同志社大学経済学部は、1891（明治24）年9月に設立された「同志社政法学校」の「理財科」を起源としています。1889年にミシガン大学大学院において、論文「日本の産業革命」でPh.D.を取得した小野英二郎（ジョン・レノンの妻・オノ・ヨッコの祖父）が教頭・教授をつとめるなど、優れた教員を擁した先進的な学校でした。もともと同志社では、1878（明治11）年から英学校においてD.W.

ラーネットによる英語の経済学の講義が行われており、これが日本で最初の経済学の講座とされています。

その同志社英学校の創立者である新島襄は、1888（明治21）年に「同志社大学設立の旨意」を発表して大学設立にむけて精力的に活動していましたが、1890（明治23）年に神奈川県大磯の百足屋で死去します。新島の遺志を継ぐべく当時の同志社は、将来の総合大学設立をめざして、英学校に続いて「ハリス理化学校」や、医学校をめざした「同志社病院」などを次々設立していました。その一環として設立されたのが「同志社政法学校」なのでした。

その後1904（明治37）年に政法学校は廃校となり、1912（明治45）年には専門学校令による私立同志社大学政治経済学部、1912（大正9）年には大学令による同志社大学法学部経済学科、太平洋戦争の渦中の法文学部（1947〔昭和19〕年）、戦後の混乱のなかでの法経学部（1947〔昭和22〕年）と変遷し、1948（昭和23）年に経済学部として独立して今日にいたります。そしてこの間実に多くの有為な人物を輩出してきたのです。

ところで新島には、1874年にアメリカカバールモン州ラットランド市グレイス教会で開催されたアメリカン・ボード第65回年会における涙ながらの訴えが始まって、生涯資金集めに奔走していたようなイメージがあります。けれども次のような言葉を残しています。

経済は金をも労力をも消した力が、ききみ（効き目）を持たねばならぬ。ききみの好きが経済なり。

（同志社編（2010）『新島襄 教育宗教論集』岩

波文庫、122-123ページ）

実際新島は、大学設立にむけて次々と土地を取得し、国債に投資するなど、資金集めという「労力」に頼るだけではない、「ききみ」、すなわち効率をも考慮した経済観念のある人物でした。

私は、このような長い歴史と伝統、優れた創立者をもつ経済学部と、それを引き継いでこられた実績をもつ卒業生の皆様からなる同経会が、今後も力を合わせて、新島の望んだ、そして経済学部出身という独自性をもつた、いわば「ききみ」をも考慮した「良心を手腕に運用する人物」を輩出し続けることができるよう努力してまいる所存です。同経会会員の皆様のご協力を引き続きお願い申し上げます。



特別インタビュー

株式会社村田製作所
代表取締役会長

村田恒夫氏

Interview

村田恒夫氏

1951年8月生
1974年3月 同志社大学経済学部卒業
1974年4月 株式会社村田製作所入社
1989年6月 株式会社村田製作所取締役就任
2003年6月 株式会社村田製作所代表取締役副社長就任
2007年6月 株式会社村田製作所代表取締役社長就任
2017年6月 株式会社村田製作所代表取締役会長兼社長就任
2020年6月 株式会社村田製作所代表取締役会長 現在に至る

先輩方からお話をお伺いする特別インタビューです。今回は、同経会の名誉顧問で、株式会社村田製作所会長の村田恒夫氏をお訪ねして、お話を伺いました。

同志社の一貫教育で育つ

京都市東山区の生まれで、小学校2年生から向日町（現在の向日市）に引っ越しました。中学、高校、大学と同志社の一貫教育を受けました。

中学、高校時代はラグビー部に所属し、ポジションはフッカーでした。高校1年の時には全国大会にも出場するチームでしたから、毎日の練習は結構厳しいものがありました。その後は残念ながら全国大会には出られず、京都で2位の位置付けでした。高校時代に厳しい練習を積んできた経験は、社会人になってからの自分の支えになっています。

同志社高校時代の成績は中位でしたが、大学では経済学部にも推薦入学させていただいた。父が電子部品を作っている「(株)村田製作所」を創業しており、自分も経営に参画するとなると経済学を学ぶのが良いと考え、経済学部を選びました。当時の経済学部は他の学部に比べ入るのは厳しかったように思います。1970年の入学ですが、当時は学園紛争が下火にはなりながらも継続しており、講義が休講となるケースも多くありました。ゼミは経済原論の渡辺先生でしたが、しっかりと勉学に励んだとは言えません。

大学ではラグビーはやらずに、「絵画サークル」に入り主に油絵を描いていました。スポーツから文芸へと活動に移すのは異質かもしれませんが、体力が優れていたわけでもないので、幅広い体験を試みることを大切に感じていました。

村田製作所への入社と海外赴任

就職活動はやっていませんでした。父の兄弟や母方の叔父たち、そして兄も村田製作所に勤めており、在学

中から自分も父の会社に入るだろうなと思っていました。大学4年の夏休みには福井県今立郡池田町にある村田の工場に1か月間実習に行きましたが、実習を行っているうちにモノづくりは楽しいと思ひ始め、卒業後すぐに村田に入社しました。

当時、村田製作所の本社は長岡京市の長岡天満宮のすぐ近くにありましたが、私の配属先は福井県武生市（現在の越前市）の生産子会社になり、そこで半年間「可変型コンデンサ」の設計、製造技術を学びました。私は経済学部出身ですが、子供の頃から理科や工作などが好きで、技術分野に対して興味深く取り組みましたし、半年間で一通りのことが出来るようになったと思います。

この半年間の実習は、当時アメリカのニューヨークにあった技術・資本提携をしていた現地企業に向向するための準備で、10月にはニューヨークへ出向することとなりました。ニューヨークと言っても提携先の工場はマンハッタンの東にあるブルックリンというあまり治安の良いない地域にありました。アパートはマンハッタンにあり、そこから30分程かけて地下鉄で通っていました。出向先では3年程、設計、製造技術者として設計の見直しや生産効率改善などに取り組み、その後は営業部門に移り、セールス・エンジニアとして出向先の製品の技術サポートや日本からの産業用電子部品の販売業務に当たりました。

6年間アメリカで過ごした後、福井に戻って3年間、島根県の出雲で3年間、製造技術や工場経営の業務に就きましたが、その後1987年、西ドイツのニュールンベルグの事業所の製造担当副社長として赴任しました。当時のドイツは東西が分断された状態で、出向

中の1989年11月にベルリンの壁が壊され、1990年10月に東西ドイツの統合が実現しました。ニュールンベルグの事業所は村田が1980年に買収したアメリカの老舗電子部品メーカー「Eric社」がドイツに持っていた製造・販売子会社でした。当時の欧州と日本の間では貿易摩擦が起っていました。日本からは「据え置き型ビデオデッキ」が大量に輸出されていた時代で、欧州からは生産の現地化が求められていた時代です。当社としても部品に対する関税障壁が出来る前に、電子機器メーカーから求められる部品の現地生産を始めようと、生産部門の拡大に力を入れました。

村田の成長の秘訣

如何にお客様のニーズを先取りして、他社より早く新しい商品を作るかということが一番重要です。村田はラジオの時代、白黒テレビの時代、カラーテレビへの進化、カセット式ミュージック・プレイヤーから据え置き型ビデオデッキ、ポータブル・ビデオ・カメラなどなど、それぞれの機器の開発に合わせて、そこに必要な部品を提供してきました。一言で言うとマーケティングですが、お客様の開発部門や設計部門の懐に入り、次に必要とされる部品の仕様を教える、あるいは一緒に決めるのです。それは簡単なことではなく、お客様との間で「ここなら任せられる」といった信頼関係が出来ていなければ、議論していただけるものではありません。もちろん、そうした期待にこたえられる開発力が無いとそうした関係は築けません。自社としてもテクノロジー・ロードマップという技術の進化の方向を明確にして先行技術の蓄積をすすめたり、

プロダクト・ロードマップに沿って最先端の部品の開発を進めたり、求められる製品仕様にタイムリーに新技術や新商品を投入できる準備が必要となります。

村田の経営理念

創業者の父が、創業から10年経った1954年に作ったのが当社の「社是」です。当時は大きな不況に見舞われ、従業員の仕事への姿勢もバラバラになりかけていました。創業当初はベンチャー企業として従業員全員が一つの方向に向かって意気揚々と仕事をしていたのですが、そうした一体感が失われつつあったのだと思います。そこで創業者は「どういう会社にしたか」「どんな従業員と仕事をしたいか」ということを自分の言葉で、はつきりと皆に示したいという思いで「社是」を作りました。

今は「パーパス経営」が注目されていますが、創業者は当時から会社の使命やステークホルダーとの関係についても自らの考えを示していました。

社 是

技術を練磨し
科学的管理を實踐し
独自の製品を供給して
文化の発展に貢献し
信用の蓄積につとめ
会社の発展と
協力者の共栄をはかり
これをよろこび
感謝する人びと
ともに運営する

――社長就任と大切にしていること

2007年に社長に就任しました。それまでは製造部門や営業部門といった現場の仕事に就くことが多く、特に営業本部長として東京の暮らしが13年と長かったため、本社のスタッフの業務に積極的にかかわることは苦手でした。幸い、そうした分野で秀でた役員がおり、彼らのサポートを得てうまく経営をすすめることが出来たと思っています。自分はどんな仕事でもこなせる全方位的に優れた人間ではないことを認識し、仲間に自分の不得手な部分を任せることで、社長としてのプレッシャーは大いに軽減されたと思います。

一番大切にしていることは、社員一人ひとりが生き生きと働けるような、企業風土を作ることです。2003年の副社長時代に外部の機関を使った企業の「組織風土診断」が行われ、そこで村田は「大企業病」を患っているとの診断を受けました。すなわち、企業の活性化が落ちているとの判定です。私は「組織風土革新活動」の責任者を任せられ、CSⅡ顧客満足度とESⅡ従業員満足度の向上に取り組みました。

先ず、お客様のことを第一に考えて行動できる企業にしようとしていました。当時は社内の都合を優先するといった内向き志向の仕事の仕方に偏っていました。価格や納期、サービスといった点で、お客様の目線に立った活動が出来ていませんでした。お客様に寄り添った活動を進めようとしたのですが、これがなかなかうまく行きませんでした。コンサルタントの指導を受けて解ったのですが、お客様の要求に対応する多くは一般の従業員ですが、彼ら彼女らが生き生きと仕事をしていたら、お客様のことについて考える余裕など出来ない、と言われました。すなわち、CSの向上



の前に、ESⅡ従業員満足度の向上を進める必要があるということでした。

そこで、ESの高い企業について学んだり、訪問したりして、どうすれば仕事への関心度が高まり、自発的な行動が起こせるのかを学びました。同時に、部下を使う立場のマネージャーたちの仕事の仕方、部下に接する態度、指導方法などの再教育をしました。こうした活動を進める中で、結局は経営の上層部自身が見れば私たちの仕事の姿勢、部下へ求めることを変えなければいけない、下の人たちは上本気で変わろうとしてい

るかを見ているのだと学びました。

――企業風土変革への道のり

当時は役員間であまり会話が無く、部門間の壁も厚く、決まったことだけをやるマニュアル指向が強く、失敗を恐れるがゆえにチャレンジする姿勢も委縮していたように思います。そこで、役員間のコミュニケーションを密にするために、役員合宿を開き会社の抱える課題について議論したり、会社のありたい姿を示す「グランド・デザイン」をまとめたりするなど、様々な活動を行いました。また、現場を重視する経営スタイルを定着させるため、現場の課題を聞き、経営層が出来る改善を進めて行きました。そうするうちに部下や部門間のコミュニケーションも増え、部門間の連携がスムーズに行える風土が芽生えて行きました。「組織風土改革」には10年掛かると言われて始めましたが、やはり役員やマネージャーたちの仕事の姿勢が変わり、風通しが良くなるには10年ほどかかりました。

今ではマネージャーたちは自分の部下たちを働かすくするための工夫をしたり、部門の方針も構成員と議論しながら作ったりして、出来るだけ多くのメンバーの仕事の位置づけを理解してもらい、経営に参加している意識を高めようとしています。

――従業員との対話

社長になつてからブログを始めました。週に1回か2回、ずっと書いてきました。今は950回目ぐらいになっていますが、ずっとこの17年間書き続けてきました。続けることで、こちらから会社の状況だとか、こんなこと考えてこんなことやっていると、いったことを発信して

います。なかなか双方向のコミュニケーションにはなりにくいところもあるのですが、ブログを発信すると同時に、「恒夫ポスト」という私の名前のポストですが、目安箱みたいなものをつくり、皆さんからのいろんな提案を聞かせていただきました。事業の方向性のことだったり、仕事の仕組みのことだったり、新しい商品の提案だったり、風土改革や人事に関する提案などがありました。こうした提案に対して、自分の考えや、担当部門の対応などをブログを通じて返信してきました。

また、社長に就任して以来ずっと、工場を訪問して現場



の従業員の様々な活動を聞きに行くことも続けています。自分が育ったのは工場の現場だったし、モノづくりの会社なので、現場が付加価値の源泉の大きな部分を占めているので、現場を重視する姿勢は変わりません。

海外も含めて工場は60ぐらいありますが、全部一年で回り切れないので何年間に一度といった間隔で計画的に、「工場診断」と名付けて訪問しています。現場ではどんな改善しているのか、どんな苦労があったのかなどというようなことを聞きに行き、コミュニケーションを図ってきました。そういうことが、現場の従業員にとっては自分たちの活動を認めてもらっているということにつながり、さらなる改善魂に火をつけるのです。そうした現場の改善事例を聞かせてもらうのが私の楽しみでもあり、ずっと続けてきているということですが。

——グループ企業の経営について

グループ企業数は80以上あります。主に世界に散らばる現地法人化している販売会社と国内外の生産子会社です。それぞれが独立して責任を持って損益管理できる立て付けになっています。村田製作所は開発や事業部門の中枢を持ち、工場から商品や生産ノウハウに対するロイヤルティを得ながら、生産子会社に生産を委託しています。また、生産品を販売会社に対してある仕切り値で販売しています。それぞれの子会社がそれぞれの分野で経営の工夫をしており、それを管理会計ベースで評価できる仕組みと言えます。

——注力市場と技術の変化

市場がどんどん変化していきます。私が社長だった時代は携帯電話ですとかスマートフォンが非常に拡大したおかげで、あまり苦労せずに業績が伸ばせたという部分があり

ます。もちろん携帯電話市場には30年以上前から重要部品を提供してきた歴史があり、その中で次々と新しい商品、市場の変化に対応した商品を生み出す優れた技術陣がいたからこそできた成長です。中には一つの機能に対して社内にある異なる技術を使った異なる商品同士が競合するといったケースもありました。何を選択するかはお客様の設計手法や製品の位置づけなどで変わったり、技術トレンドの中で取捨選択されたりしてゆきます。

社長としては大きな部品需要を形成する携帯電話市場で様々なビジネスチャンスを見つけて開発に力を入れ、同じ市場に売れる商品群(クラスター)を育てることでしょうか？そういう点では、社長は成長市場の技術トレンドをしっかりと把握している必要があります、お客様との技術交流会には頻度高く出ていました。現在の売上構成は、海外顧客が約80%強ありますから、世界のトレンドを見極めるには海外のお客様との交流が重要になります。これからも通信という機能は様々な分野で活用されると思うのですが、スマートフォンのような画一的な使われ方ばかりではないと思いますので、どこで需要の拡大が起こるのかを注目しておく必要があります。

今は、どちらかというと成長率の面でいえば、自動車市場の成長が著しい状況です。世界の自動車の生産台数はほとんど伸びませんが、EV化とか、ADASと呼ばれるような安全走行システムに部品需要の拡大がみられます。そういったところに成長の比重が移っていつているので、今後の技術の変化を先読みする力が求められます。そうした目利きの出来るメンバーをそろえると同時に、市場の変化に常に先手で、求められているような機能の部品を出し続けられる技術力を構築することが重要です。

あと、こういうハードの製品というのは、デジタル化され



ていく分野が多いのですが、デジタル化されていくと、誰でも何処でも作れるようなコモディティ商品になっていきます。そういう中で私の後任である中島社長は、コモディティの汎用電子部品が第1層なら、用途特定型のモジュール系の商品が第2層で、サービスや「モノではないコト売り」とも表現される第3層目のビジネスがあり、この第3層への事業領域拡大を進めようとしています。そういうサービスをクリエイティブにしているようにすると、ハードウェアが陳腐化してもそういうビジネスで拡大できるということです。

もちろん何の知見や経験なしでサービスができるわけではないので、我々の持っているハードと絡み合わせて通信やセンサーなどと、サービスを組み合わせるようなビジネスをクリエイティブしているところだと思います。

——会長としての役割

2020年に会長に就任し、執行の分は全て新社長に委ねていますので、私はガバナンスの強化を進めていきます。

これまでベンチャー企業がそのままの体制で大きくなってきたところがあります。家族経営から出発した企業でもあったので、ガバナンス面では、まだ不足しているところがあると思います。そのために、ガバナンスの強化と透明性を高めてステークホルダーの皆さんにもっと理解しやすい会社にしようとしています。もう一つは、執行に対して監督モニタリングをしっかりとという立場で仕事をしています。中長期方針は会社の目指すべき方向をしつかりと示しているか、健全で持続的成長を目指す施策を打ち出しているかを確認しています。また、執行面でこれらの方針や目標が環境の変化の中で必要な修正を加えられながら遂行されているかといった点から監督しています。自分が社長として執行側に居た時には、そうした厳しい監督もされずにきただけに、何とも面映ゆい気持ちです。

——京都企業の特徴

我々のビジネスは90%以上海外に向けてやっている輸出企業ですけれども、京都企業にはそれぞれ似たよ

うな事業領域でビジネスをしている企業も少なくありません。ただ、それぞれが自分たちの得意分野を深掘りして、それを世界に通じるレベルに引き上げているのが京都企業の特徴だと思います。インフラ系の事業主も少ないことから、ニッチな分野を掘り下げ、世界の大きな市場に向けてビジネスを展開していかざるを得なかったように思います。世界に通じるビジネスをするためには自社の力だけでは不足することもあり、京都に多く集まっているアカデミアとの交流、連携は大きな力になっています。また、経営者同士も様々な会合で顔を合わせる機会も多く、お互いが学び合いながら、ビジネスや京都の発展のために力を合わせる活動につながっているというのは京都らしいところだと思います。

本日は大変お忙しい中、お時間を頂戴しありがとうございます。また、多岐にわたり貴重なお話をいただき、誠にありがとうございます。





開催報告 総会・卒業生のつどい

文・長田 宏（昭和52年卒）

Report

七月八日（土）同志社大学経済学部「卒業生のつどい」が、からすま京都ホテルで開催されました。昨年は、新型コロナウイルスの影響で若干の自粛ムードもありましたが、今年は百名以上の参加者を得て盛大に催されました。また、卒業生のつどいに先立ち見学会も復活され十数名の参加者を得て、今出健一つどい委員（昭和45年卒）のガイドにより、京都御苑、御所を巡り好評を得ました。

引き続き総会、講演会、公演、懇親会が開催されました。

総会司会を中谷豊美執行理事（昭和54年卒）が務めました。総会は、会則にのっとり田堂哲志会長（昭和52年卒）が議長となり、議事が進められました。総会に先立ち、物故者の方々に黙とうを捧げました。

第1号議案「2022年度活動報告並びに決算報告」第2号議案「2023年度活動計画並びに予算計画」が一括上程されました。

田堂会長より、会長3年目の抱負が述べられました。特に、来年度から十一月のホームカミングデイに合わせて総会を実施したいとのことでした。2022年度の同経会のビジョンのもとに活動した結果、同経会員数の増加をもたらし、収入の増加、併せて寄付の募集により財務基盤の強化が図られたことが報告されました。同経会賞を充実するほか「アカデミア賞」「スポーツ賞」の創設、大学への貢献活動として「学生プロジェクト」へ支援を行うことが報告されました。学生プロジェクトについては、総会の後に、学生から一般企業での具体的活動内容の報告がなされました。各委員会の担当副会長、委員長から「2023年度活動計画」が提示されました。



「2022年度決算報告」「2023年度予算計画」が、鍵圭一郎専務理事（平成1年卒）より説明され、小杉将之監事（平成1年卒）より会計監査報告がありました。第1、2号議案について諮られた結果、議案通り承認されました。

第3号議案として、終身会費積立金使途計画予算案が上程されました。十年程度継続して大学や学部学生

に対して貢献するために、一部と崩して有効活用していくもので、これも議案通り承認されました。続いて、第4号議案「役員改選について」田堂会長提案通り承認されました。名古屋支部が、東海支部と改称がなされました。

今年度の同経会ビジョンに、「継続する同経会」を付け加え、持続していくことの重要性を述べられ、今年度の総会も、昨年度の総会と同様に、田堂会長の熱い思いが伝わる総会となりました。

続いて、学生プロジェクトの具体的活動内容が、学生によって報告されました。プロジェクト参加企業の持つ課題を学生の立場から解決策を考え提案していく実践的な学習の場を提供するもので、同経会が支援すること、より活動の自由度が増し、学生、企業にとってより有効なものとなっているようです。

講演会は、村田晃嗣同志社大学法学部教授に「ウクライナ戦争と日米中関係」と題して講演していただきました。時宜を得た題材であり、先生の軽妙な語り口と、研究者ならではの具体的な数字をもとにしたお話に、納得したり、そのもたらす未来に落胆したりと、あつという間の1時間でした。

休憩をはさんで、同志社交響楽団弦楽四重奏による演奏が行われ、一服の清涼感をいただきました。ちなみに、演目は、カレッジソング、ボロディンの弦楽四重奏第二番、第一楽章、第三楽章でした。

懇親会は、田堂会長の挨拶、来賓紹介、八田英二同志社総長・理事長、植木朝子同志社大学学長からご祝辞をいただき、宮本大経済学部長のご発声のもと一同乾杯の後、開宴となりました。

今年度は、平成・令和の卒業生が、全出席者百八名中

(来賓十六名)二十八名と多く、また、抽選会も企画され、会場は活気にあふれていました。

最後に、近藤和夫つどい委員長(昭和44年卒)が挨拶され、「料理が足りない」との反省を述べられていたのも致し方なかったのかもしれない。そこで、若い人材のつどい委員への参加を強く要望されていました。また、同経会員でありながら、会員登録をされていない方もおられることがわかり、一人でも多くの方の登録の依頼もありました。

この後カレッジソングを唱和して、お開きとなりました。



大阪支部からの報告

「開催報告 第11回同経会 大阪支部のつどい」

文・同経会大阪支部支部長 清水友紀
(平成6卒)



「第11回同経会大阪支部のつどい」を2024年3月11日(月)にホテルモントレ大阪にて開催しました。八田英二総長・理事長をはじめ横井和彦経済学部教授や各団体のご来賓をはじめ総勢120名を超える校友が集いました。支部総会では昨年度の活動報告・決算報告並びに今年度の活動計画・予算計画をご承認いただきました。支部組織として2年目の年に入り新しく若手役員9名の加入もあり無事に大阪支部のつどいを盛会に開催できたことは大変、嬉しく思います。ご参加いただきました皆様や役員の皆様には心より感謝申し上げます。

また記念講演では株式会社マクアケ共同創業者／取締役の坊垣佳奈さん(2006卒文学部)を講師にお迎えし「あの小さな会社の大ヒットはここから生まれた!!!」Makuake最新事例に学ぶ「売れる」の新法則のテーマでご講演いただきました。今回は若手OBOGの参加や初参加の方が多く見られクラウドファンディングや最新のマーケティングに高い関心を寄せている姿が印象的でした。懇親会では名刺交換やPRタイムなどの時間も取り、有意義な交流が図れ、恒例の大抽選会では田堂会長特別賞などたくさんの方が当選され大いに盛り上がりました。

最後になりましたが今後も大阪支部でより活動を活性化させ経済学部卒業生の様々な交流の機会を提供して参りたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



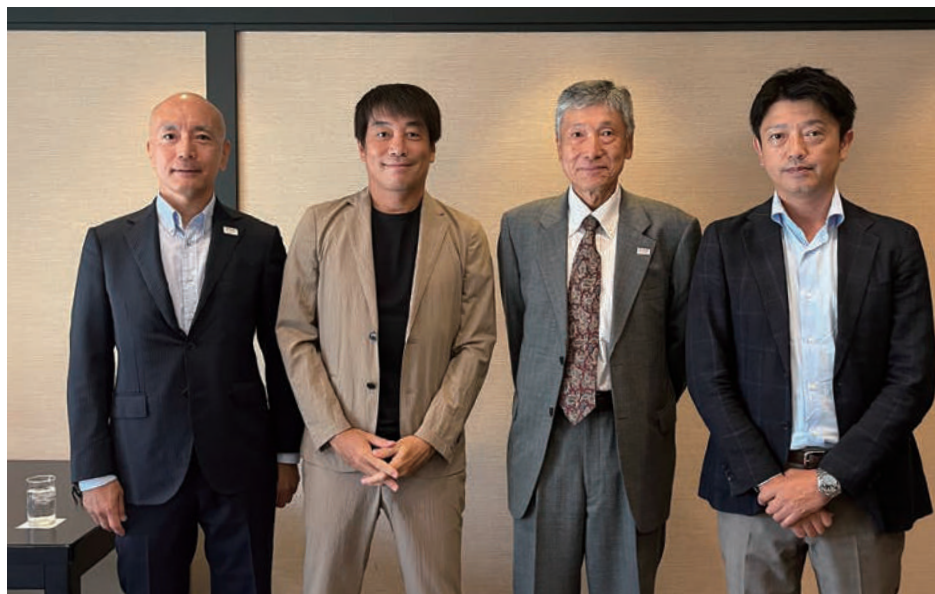
東海支部からの報告

「開催報告

東海支部名古屋のつどい」

文・東海支部支部長 岩村 稔

(昭和54年卒)



同志社大学経済学部同経会東海支部は2023年より支部化され活動していく事になりました。東海地域において経済学部卒業生へ情報発信することにより同経会の価値を向上させ多くの方に参加頂く事を目標としています。

今回、東海支部企画の第一弾として2023年9月9日(土)に名鉄グランドホテルで11時30分から『名古屋のつどい』を開催しました。同経会東海支部

旗を新規作成しこの名古屋のつどいでお披露目となりました。前日まで台風の影響が心配でしたが当日は台風も抜け快晴でとても気持ち良い天候となり出席者も

51名と前年より多くの方に出席頂きました。講演者はスポーツジャーナリストの中西哲生氏で、「さらなる成長に向けて」というテーマで講演頂きました。

スライドを使い中西氏が昔Jリーグ(名古屋グランパス、等)の選手であったことを証明する選手時代のプレーを紹介。現在世界で活躍中のサッカー選手(ソシエダの久保健英、等々)のパーソナルコーチでもあり

久保選手の凄さを写真で説明頂きました。選手を育てる為のキーワードはTeachではなく、Coachingであり選手本人が伸ばしたいと思う事をCoachingすることが大切だという説明は興味深いものでした。

また出演されているTBS『サンデーモーニング』の裏話も少しお話し頂きました。

中西氏としても同志社卒業生の前という事とJリーグ時代に使った名鉄グランドホテルでの講演という事で

久しぶりにホームに戻ってきたとの感情を持たれていました。講演終了後懇親会までの間で出席者それぞれと記念撮影の時間をとって頂きました。

今回初めて抽選会を実施しましたが大いに盛り上がり、最後の特別賞の中西氏のサイン色紙が抽選会主催者に当たるといふハプニングもありました。

同経会東海支部として次年度も卒業生に楽しんで頂けるようなプログラムを企画し、今まで活動に参加できなかった卒業生や同経会をご存知ない卒業生の方にも発信し会員を増やしていきたいと思えます。

東京支部からの報告

「開催報告 東京支部のつどい」

文・東京支部支部長 田村憲一
(昭和58年卒)



2023年11月15日(水) 18:30〜霞が関、日本記者クラブ10階ホールにて第19回同経会東京支部のつどいを開催いたしました。コロナ禍からの再開、4年ぶりの開催となりました。当日は、幅広い年代から69名の校友にご参加いただき盛会となりました。

今年は、フランスでラグビー・ワールドカップが開催され、日本代表の活躍もあり、ラグビーで盛り上がる一年となりました。そこで第一部の講演会は、ご在学中またご卒業後の神戸製鋼でもラグビーで活躍され、元日本代表キャプテンでもあります林敏之様にスピーカーをお願いいたしました。林様には「BE HER O〜胸に眠るヒーローを呼び覚ませ! ヒーローは自分の中にいる〜」というテーマでお話いただきました。日本代表は惜しくもアルゼンチンに敗れ決勝トーナメント進出を逃したこともあり、勝つこと・日本一への拘りとご自身の経験、恩師との出会い・学びそしてその実践を大変熱量高くお話いただきました。講演後、同志社ラグビーの現状について質問が寄せられました。強化体制、田辺移転後の集合練習の難しさなどご指摘いただき「自分の住処(常に優勝に絡むポジション)に帰ろう」と部員に声をかけたエピソードをお話いただきました。

田堂哲志同経会会長、青木重之東京校友会代表幹事にご挨拶いただいたのち今年作成した新しい同経会東京支部旗のもとで懇親を深めました。田堂会長からは、やはりこの大都市東京で確固とした基盤を作る事、そのためにも交流会ほかイベントの企画など積極的な活



動推進が重要とのお話がありました。

その後、林様の著書「上昇のワンチームを作る8つのステップ」の抽選会、林様の同志社チアアののちカレッジソングを全員で斉唱、帰りには同志社ボールペンと玉露アメセットのお土産もあり、楽しく和やかな会となりました。

しめた会からの報告 「しめた会の活動報告」

文・しめた会会長 宮村定男
(昭和56年卒)



新型コロナの大きなダメージにより2020年2月の「第6回しめた会」から次の「しめた会」が実施できず残念な状況でしたが2023年9月9日(土)に、からすま京都ホテルで「第7回しめた会」を開催いたしました。総勢約90人にお集まりいただき、講演会

の講師には京都の老舗の百貨店である藤井大丸の第4代目社長の藤井健志様をお迎えしました。藤井大丸は明治3年に藤井呉服店として創業。昭和10年に百貨店として開店し、ヤング向けファッションを中心に運営されました。昭和47年には関西初のマクドナルドを出店させ、平成8年にファッション専門大店へ展開し、京都のファッションニスタに支持される藤井大丸へと進化を遂げられ、常に積極的に挑戦される存在として2020年には創業150周年を迎えられました。同志社が来年に創立150周年を迎える事から同じ時代を歩んでいる企業の経営者として藤井様には熱き思いを語ってもらいました。

藤井様は同志社大学経済学部を卒業後ソフトバンク・あずさ監査法人にて企業財務のキャリアを積み上げられたうえ、藤井大丸に入社されて京都の街やお客様・働く人達・地域の方々に感謝の気持ちを大切にしながら経営に携わっておられます。ご講話については、藤井大丸のブランディングの構築の仕方や、お客様から選ばれる差別化を図るには競争分野を確立させて勝負しなければならぬ思いから、いつも新しい価値を提供し続ける事を目指している。それを行うには人間らしく楽しく前進し、自由と良心という同志社人ネットワークを活用して行きたいという内容でありました。この思いによって京都経済の展望と我々が進む方向も示していただいたように感じました。

懇親会では、藤井様と短い距離で対面でき力づけられるお言葉を聞くことができたとおっしゃる人達も結構おられ、また参加されている経営者の方々が他の参加者と名刺交換や情報交換も活発に行っておられるのを見て、若いパワーを感じました。ラストには参加者

全員が大きな声でカレッジソングを熱唱し、同志社チアリーで力強く締め括れたと思います。二次会においても藤井様からのお誘いから、執理事のみならず参加者も思いの外多くの参画があり、その場も本当に大いに盛り上がった事に心から感謝を申しあげます。

またしめた会の初企画である「同志社グルメ選交流会」として2024年3月8日(金)に京野菜を大切にするダイニングレストランE.L.O.V.E(四条高倉上)で実施しました。この会は同志社出身者が経営する飲食店で、その経営者から店舗の運営方針や料理について語っていただき、料理も味わい一献も交えながら交流を図る内容のものです。20人が集まり賑やかに実施でき今後も企画継続していきたい所存です。

次の企画として「しめた会ゴルフコンペ」を2024年6月1日(土)にダイヤモンド滋賀カントリークラブ(滋賀県甲賀市土山町)で計画中です。同経会ホームページ等で案内しますのでたくさんの方にエントリーいただきたくお願い致します。今後色んな企画も計画していきますので皆様のご参加をお待ち申し上げます。



企画渉外委員会からの報告

文・企画渉外委員会

副会長・委員長 中村 恭俊

(昭和60年卒)



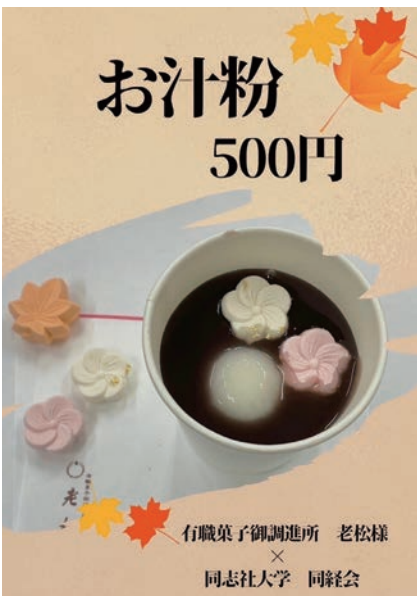
企画渉外委員会では経済学部と連携して学生の教育向上に資するプロジェクトの創成、実行に注力しております。2023年度につきましては以下のプロジェクトの推進を致しました。

1, 同経会学生プロジェクト

本年度は京都市上京区にあります和菓子の老舗「老松」様のご協力のもと学生感覚の製品の開発協働を致しました。その過程では同社の太田取締役より京都の和菓子の成り立ち、歴史的背景、時季に応じたお菓子を食べる理由等も講義して頂きました。その集大成として11月25日北野天満宮の縁日の日に、同神社近傍の老松北野店の店頭で学生たちのアイデアによる「お汁粉」を販売いたしました。

この取り組みは京都新聞(11月25日朝刊)、上京区役所のWeb広報媒体である「上京ふれあいネット・カミング」でも大きく取り上げられました。

京都以外から進学した学生にとって「THE京都」を学ぶと共に、採算等のビジネスの第一歩も学ぶ有意義な経験となりました。



またご協力いただきました「老松」様にはこの場を借りてお礼申し上げます。

2, 同経会奨学金制度制定の準備作業

2023年度の1年をかけて経済学部と綿密な打ち合わせをし、2024年度から同経会の新規大事業として「同経会奨学金制度」を立ち上げることとなりました。詳細は総会等でご説明致しますが、同経会の主たる目的である学生を支援するという立場に立ち、今の時代に即したグローバル人材(人財育成の一助、コロナ禍の影響を受けた方々も含めた経済的援助、世界レベルで戦う



トップアスリートの応援といった狙いがあります。

奨学金は上述の3種類あり、すべて返済不要の支給型です。①生活支援プログラムは2年生を対象に30万円を3人に支給 ②留学支援プログラムは同志社大学派遣留学プログラムを活用して海外留学する学生10〜20人程度に総額200万円を支援 ③トップアスリート支援プログラムは世界に通用するアスリート1人に20万円を支援、以上年間総額310万円を奨学金として応援するものであります。

②③の対象学生には同経会総会や同経会報において経験を披露して頂く予定にしております。

当委員会では学生達が同志社大学経済学部で過ごす4年間に貴重な経験をし、卒業後、「面白かったな」と振り返り、やがて同経会に戻ってきてくれるような企画を実行していきたいと思っております。皆さんから色々なアドバイスを頂戴できますこと楽しみにしております。





同経会賞授与式と 同経会賞受賞者からの便り

Award



同経会賞は、経済学部専門科目の総合成績が、極めて優秀であった学生上位5名を表彰する制度です。1978年に第1回の授与が行われて以来、今年3月で47回を数える歴史ある賞です。

この間、経済学部の卒業生は約6万名を超え、同経会受賞者は総計258名になりました。今年度は、この同経会賞に加え新たに特別賞（同経会が特別に表彰）を設けました。

卒業式と同じ日に授与式を挙行、各賞受賞者には賞状と記念品が授与されました、第47回受賞者を、学籍番号順にご紹介致します。

受賞者の皆様、おめでとうございます。今後のご活躍を祈念申し上げます。



2023年度同経会賞 受賞者

区分	氏名	演習担当者
成績優秀者	中本 朱優	小林 千春
成績優秀者	水谷 早希	荒渡 良
成績優秀者	四宮 翔太	荒渡 良
成績優秀者	飯沼 彩美	
成績優秀者	増田 隼	
アカデミア	松本 悠輝	竹廣 良司
アカデミア	福永 優樹	四谷 晃一
アカデミア	徳山 晴大	宮崎 耕
アカデミア	曾我部 有加	新関 三希代
アカデミア	野上 竜之介	新関 三希代
アカデミア	沖永 昂基	新関 三希代
アカデミア	笹木 大揮	新関 三希代
アカデミア	森本 雄太	新関 三希代
アカデミア	スキャンランセリ-ナ花奈	新関 三希代
アカデミア	速水 ほのか	新関 三希代
アカデミア	石津 玲奈	新関 三希代
アカデミア	小林 元春	新関 三希代
アカデミア	奥野 雄人	新関 三希代
スポーツ	川戸 洋平	ヨット部
スポーツ	池田 葵	カヌー部
スポーツ	名和田 千紘	柔道部
スポーツ	藤久 雄士	ソフトテニス部
スポーツ	豊野 花奈	應援団 チアリーダー一部
特別賞	寺田 七海	宮本 大
特別賞	岩佐 一秀	迫田 さやか
特別賞	長谷川 慶人	宮崎 耕
特別賞	金武 朝陽	和田喜彦



つながりを大切に

平原 知佳

パナソニック 人事

〈東ゼミ〉



この度は同経会賞をいただき、大変光栄に思います。

大学時代を通して私が一番感じたことは、人とのつながりの大切さです。地元を離れ、右往左往しながら始まった大学生活、2年生からはコロナ禍になり、不安になった時も多かったです。しかし、一緒に笑ったり、悩んだり、沢山の思い出を共にした友人、サーク

ルやアルバイト先の仲間、真摯に相談に乗ってくださった東先生、離れていてもいつも応援してくれていた家族の存在、色んな方の支えが私の原動力になりました。大学でなにか大きなことを成し遂げたわけではありませんが、日々の小さな成長を積み重ね、その時々でのつながりを大切にしたらからこそ、今の私がいます。

社会人となった現在は、人事として組織風土改革やDEI推進に携わっています。まだまだ未熟ですが、後悔のない人生だったと思えるよう、今後もうつながりを大切に自分らしく邁進していきたいと思っています。

最後とはなりますが、これまでお世話になった皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

「なぜ」を大切に

加嶋 雅史

日本コントロール
システム株式会社
〈小橋晶ゼミ〉



この度は同経会賞を頂き、大変光栄に思います。4年という短い大学生活でしたが、周囲の人に恵まれたおかげで、とても密度の濃い時間を過ごすことができました。私の人生に彩りを添えてくださった教授、先輩、友人には感謝してもきれません。

さて、私は現在、システムエンジニアとしてソフトウェアの保守業務に携

わっています。ほぼ未経験の状態では術者として入社し、現在も毎日分からないことだらけです。その中で上司によく言われるのが、「『なぜ』のように考えたか』を大事にしてほしい」ということです。自分が決めた内容に対して理由が説明できないときは、たいしてその内容への理解が足りていなかったり、重大な考慮漏れが発生してしまいます。思えば経済学の勉強でも、成立に至る経緯を理解しないまま公式を暗記してしまい、テストでそれをうまく活用できなかった時がありました。このように「なぜ」を大切にしながら現在の業務に励んでいます。

大学で得た知見を活かしつつ、常に謙虚な心を持って、今後も精進していきたいと思っています。



自分のペースで

越智 桜

アルバイト

〈上田曜子ゼミ〉

まず、この度の能登半島地震により被害を受けられた方々へ心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

賞を頂いたときは、自分の努力は同経会賞に見合ったものであっただろうかと身に余る思いでした。しかし、入学当初より勉学を一番にと考え取り組んできたことを評価していただけたと捉えると光栄に感じ、この賞が私を支えてくださった方々への感謝の証となると思うと嬉しく思いました。

私は2023年に裁判所職員総合職試験を受験し合格、2024年4月より家庭裁判所調査官補として採用していただく予定です。私は同期と比べて一年遅い就職となりますが、その一年は自分と向き合い将来について考えた

結果であり、意味のある一年であったと考えています。

新しく挑戦しようとするとき、特に挑戦するのが周囲と比べて遅いと感ずるとき、挑戦することのリスクを過大評価してしまいがちです。リスクについて考えるのは大事なことです。過大に評価して挑戦しないことはもったいないと思います。ぜひ、勇気をもって後悔のないように挑戦してみてください。周囲のペースではなく、自分のペースで続けてください。また、一人ではできないと思ったら、声をあげてみてください。声に気づいた人が、きつと助けてくれます。

最後になりますが、充実した4年間を送らせてくれた友人、支えてくださった先生方、勉学に専念する環境を整えてくれた家族に感謝します。そして、拙い私にこの場をくださった同経会の皆様に感謝します。

海外インターンシップ生 からの報告

Report

2023年度の海外インターンシップ事業は、みずほ銀行様、株式会社ITP様、ダイキン工業株式会社様、日本コルマー株式会社様の協力を得て実施しました。心より感謝申し上げます。研修生として参加したのは、4名です。経済学部の先生方、事務室の皆様をはじめご協力いただいたすべての方々には厚く御礼申し上げます。



海外で働く足掛かりを求めて

栗本 陽菜

〈派遣先〉ダイキン工業株式会社



9月12日からの約2週間、マレーシアのセラランゴール州にあるDaikin Malaysia Sdn. Bhd. (以下、DAMA)でインターンシップ生として受け入れていただきました。インターンシップの参加にあたって、私には達成したい目標がありました。それは、「海外で働くというビジョンを明確にする」ということです。長年に渡って憧れていた海外で働くという夢を叶えるために、どのようなスキルやマイン

ドが求められるのかインターンシップを通して学びたいと思っていました。

DAMAでは人事部門に受け入れていただき、主に2つの活動に取り組みました。1つ目は、営業と採用の両面からDAMA流のブランディングを学ぶことです。営業ブランディングではDAMAがマレーシアの市場でプレゼンスを高めていくための施策を、採用ブランディングでは会社の魅力を学生に伝えるための施策をレクチャーしていただきました。2つ目は、9月20日から2日間のジョブフェア(合同企業説明会)に同行し、ブースに来訪した現地の学生に対してヒアリン



グ調査をすることです。80人へのヒアリング調査の結果から、マレーシアの学生は自身の専門性を高めることに関心を抱き、将来のキャリアについて考えを持って行動している人が多いことがわかりました。将来、駐在員として働くためにはこのような優秀な学生達とも渡り合っていかなければならないと思うと、身が引き締まる気持ちになりました。

また、研修期間中は私の要望に合わせて、DAMAで活躍する日本人駐在員の方々とお話しする機会を設けて頂きました。2週間に渡って15人の方々からお話を伺い、日本人駐在員として海外で働くことについての考えが大きく変わりました。駐在員の方々はそれぞれ多種多様な経歴を歩まれていましたが、その中でも共通していることがありました。それは、皆さんそれぞれが素晴らしいスキルとリーダーシップを持っているということです。これまで私は、海外で働くには語学力が求められるという考えを持っていました。勿論、外国語が話せることに越したことはないのですが、現地には何ヶ国語も話せるようなスタッフが大量にいます。その中で求められるのは、現地スタッフに教えられるようなスキルや経験を持つ人材や多様な人々を上手く巻き込むことができるリーダーシップを持つ人材であると感じました。そのような人材になるためには、会社の中でスキルを伸ばしていこうとする成長意欲や様々な国籍・立場の人をまとめる気概が大切であることに気づかされました。この経験を通して、残りの学生生活はできる限り多くの新しい活動に取り組み、自身の知見を広げることで成長意欲やチャレンジ精神、好奇心を育んでいきたいです。それをもって、会社では積極的に業務やプロジェクトに挑戦し、経験を積んだ



うえでグローバル舞台に足を踏み入りたいと思います。

最後に、ダイキン工業様、同経会の皆様、この度は生涯忘れることのないような貴重な経験をさせていただきまして誠にありがとうございました。ここでの経験を糧に、グローバル人材を目指して日々精進して参りたいと思います。そして、後輩の皆さん、少しでもこの海外インターンシップに興味を持ってもらえたらぜひ応募していただきたいと思えます。きっとこの経験はグローバルに働くための道しるべとなるはずですよ。「百聞は一見に如かず」ということわざがあるように、

インターネットや書籍では得ることができないような経験がこのインターンシップでは用意されています。その経験は必ず将来どこかで役立つことだと思えますので、是非チャレンジしてみてください。



米国インターンシップ での学び

山本 咲恵

〈派遣先〉株式会社ITP



私が本インターンシップを志望した理由は主に2つあります。

一つ目は人々の暮らしをより便利にする車という側面からアプローチできるからです。私は高校一年生の時

にアメリカに留学をし、ふと路地裏に目をやると生活に苦しむホームレスの人をよく見かけていたため、将来私が仕事をする際には人の暮らしをより良いものにするお手伝いをしたいと思っていました。今回自動車産業に特化しているITP strategiesでアメリカでの生活には必要不可欠の「車」という側面から何か学べるものがあるのではないかと考え魅力的に感じました。

二つ目は様々な分野の業務を学ぶことができるからです。今回のインターンシップではマーケティングや営業、会計や経営などさまざまな分野をインターンシップを通して学べると知り、広い分野の知識をアメリカで得られるという点が将来国際的な人間になりたい私にとって魅力的に感じ、本インターンシップを志望しました。

インターンシップでは午前中はSkyperで各部門の会議に参加し、それぞれの理解出来たところ、理解できなかったところ、議論に対しての改善点などをレポートにまとめ、提出します。そして午後にはカンパニーハウスというオフィスに行き、そこで会社や各部門に対してより知識を深める会議に参加し、その会議を通して学んだ午前中のレポートと同じ要点をまとめて提出します。2週目になると、午後からは取り引き先との会議も足を運びました。顧客企業との会議の後はその社員の方々ととの会食に参加しましたが、その会食がない際にはITPの社員の方々ととの会食がありました。アメリカで実際に働かれている方々の貴重なお話を聞くことができ、将来のビジョンをより明確に形成することが出来ました。

また休日には日本人補習学校のボランティアに参加

しました。このボランティアは例年がないプログラムで図書館の本の管理や備品管理などをお手伝いしたり、小学生から高校生までのクラスを巡回したりしました。いくつかのクラスの授業には私も参加し、優しくしてフレンドリーな生徒とたくさんコミュニケーションを取れた貴重な経験になりました。更にTVに出演された有名な講演者の方が補習校に命の授業をされに来ており、ご縁がありITP社長と補習校の校長先生などと共に会食することができました。その会食や命の授業に参加し今私が暮らせているのは当たり前ではなく感謝しなければならぬのだと実感しました。





最終日にはITPの現状課題とその解決法をプレゼンテーションをしました。2週間で会社全体から各部門の内部まで把握し課題を見つけるのは難しかったですが、その中で何事にも恐れずに質問することが重要だと学びました。最初は用語の説明もなく会議に参加したため分からない事が多く、理解しなければと自分を追い込み質問することを躊躇っていました。しかし、学びを深めるにはこのままではいけないと思いつつ、考えを伝えたり質問を積極的にしたりする事で社員の方との距離も縮まり、会社に対しての理解をより深めることが出来ました。この経験から積極的にコミュニ



ケーションや質問をし、その物事の背景などを通してより深く考えることを大切にして就職活動や社会人になってからも活かしていきたいです。本インターンでは様々なイベントを通して、ただ海外で働くという学びだけでなく人との関わり方、思考の仕方、課題の解決方法など普段の学生生活では得ることが出来ない学びが沢山ありました。それと同時に自身の未熟さを痛感し、国際社会で活躍できるような人材になるためにこの経験を糧に努力していきたいです。

今後、参加予定の後輩の皆さんも初めての事だらけで不安に思うこともあるかと思いますが、何事にも恐れずにそして貪欲な姿勢を大切にして取り組んでください！



バンカーとして 世界で活躍するために

谷口賢次郎

〈派遣先〉

みずほ銀行 デュッセルドルフ支店



私は8月28日から9月5日まで、みずほ銀行デュッセルドルフ支店でお世話になりました。本インターンシップへの参加目的は銀行の海外支店での業務内容や働き方を体感すること、私が大学で学んできた語学力や経済学の知識が、実際の銀行業務でどのように活かすことができるのかを学ぶことです。

本インターンシップの構成は大きく2つに分かれました。1つ目は銀行業務に関するレクチャー、2つ目は最終日に支店のマネジメントにむけて行う最終プレゼンの準備です。

レクチャーは主に各部署の業務内容について教えてい

いただきました。インターンシップ初日に支店長から、み

ずほ銀行デュッセルドルフ支店は「支店」だが、ドイツ当局は「現地法人」のごとく扱うため規制が厳しいという特徴があることを教わりました。そのため、支店の規模は小さいものの、銀行におけるフロント業務からバック業務まで一通りの部署がそろっており、インターンシップを通して銀行業務の全体像をつかんでほしいと激励いただきました。監査やリスクコントロールについて英語で理解することは難しく、何度も聞き直しや質問をさせていただきました。しかし、皆さんに快く回答いただいたおかげで何とか一通りの業務を理解することができました。ドイツ人の方々に関して印象的だったのは、それぞれの業務に高い専門意識を持って働いていたことです。例えば、リーガルの方は法人営業部と意見を異にすることがあってもうやむやにせず、まずは自分の意見をはっきりと主張したうえで妥協点を模索していくとおっしゃっていました。逆に自分の役割から逸脱することはなく、最終的な判断は支店長に従うとおっしゃっており、専門性に誇りを持ちつつも互いにリスベクトしあっているという感覚が日本以上にあるのではないかと感じました。

最終プレゼンでは、ある企業に対して銀行としてどのような提案を行えるのかを発表しました。これまでのレクチャーを踏まえ、わからないことを適宜専門の部署の方に聞きつつ準備しました。私は習った銀行商品を企業の課題にあてはめ、できるだけ多く提案することを意識して発表を行いました。発表後、行員の皆さんからは提案ツール（銀行商品）の幅広さをおほめいただいた一方、銀行員は自身の商品知識を伝えたいのではなく、本当にお客様が求める提案をすることが

重要であるとの指摘をいただきました。まずは考えられる提案を考えたいうえで、お客様にとって真に必要な商品の取捨選択を行う必要があるということです。的確にお客様のニーズをとらえることで、お客様から信頼していただける銀行員になれるということを学びました。その他にも、提案のメリットだけでなくデメリットやリスクを正直に伝えることは、お客様と信頼関係を築くうえで重要であると学びました。

今回のインターンシップを通じて、私が社会に出て銀行員として一人前に働くためには、まだ大きな壁がたくさんあることを理解できました。しかし海外で働





くために必要な語学力、銀行員として働くために必要な知識など、これまで漠然と海外・金融業界で働きたいと考えていたことの解像度が上がり、実現のためにすべきことが明確になったと感じています。

このように実際に行員の皆さんが働いている現場に入らせていただける機会はとても貴重なものでした。このような機会を作り、サポートしていただいたすべての方々に感謝しております。今後の学生生活では、反省をいかして引き続き精進します。ありがとうございました。



日中架け橋としての仕事経験

劉 書博

〈派遣先〉日本コルマー株式会社



私は今回日本コルマー株式会社の研修に参加しました。参加の目的として第一に、営業という職業の仕事内容、また仕事場での異文化を実際に体感したいと考えました。第二に、私は留学生として日本企業で働くことに関心があり、仕事で日中架け橋として働く経験をしたいと思いました。第三に、実際に営業部での仕事を体験することで商品開発に関するスキルや知識を習得したいと考えました。

今回の研修は中国蘇州にある日本コルマーの子工場で行われました。研修内容としてまず、最初の一週間に、実際に工場見学や社員からの指導を通じて、蘇州コルマーでの各部門の仕事内容を学びました。主に、生産、品質、研究、営業という四つの部門について理解を深めました。そして、二週間目は営業部で顧客訪問を実際に行い、営業の仕事内容やスキルをさらに理解することができました。最後に、二週間の研修で学んだスキルや知識を応用して、具体的な商品に対して社員の前でプレゼンテーションを行い、さらに全体的に勉強した内容をテーマとして最終発表をしました。



私が今回の海外インターンシップで学んだこととしてまず、営業の仕事内容、そして日本と中国との違いです。日本コルマーにおいて、営業の仕事内容は主に二つがあります。一つは、顧客を増やすことで売上を上げることです。もう一つは、商品に相応しい資材を決定したり、そのプロバイダと連絡したりすることです。また、得意先や資材業者との商談においては、中国と日本の間に大きな違いがあります。中国では、人間関係がとても重視されています。特に用事がない場合であっても、常に顧客とコミュニケーションを取り続けるのが基本です。なぜなら、それは相手に自分のことを覚えてもらうためです。

また、商品開発の流れとアイデア創出のための知識についても学ぶことが出来ました。化粧品業界においては、市場トレンドや顧客ニーズを調査する際に、主





に二つの手法があります。一つは、T i k T o k などの利用者の多い SNS を活用することです。もう一つは業界内の専門的な情報システムを導入することです。このような情報システムは業界内の競争相手の新商品、新技術、そしてその売上高などの最新情報を手に入れることができ、自社にとって最新の市場傾向を把握するために大いに役立ちます。

最後に、説得力があるビジネスプレゼンテーションのスキルを習得することができました。今回の研修の最終課題として、私は営業部の社員の前で商品に対してプレゼンテーションを行いました。ビジネスシーン



においてプレゼンテーションをする際に、私が気づいた重要な点として、他社商品などの同種類商品との比較、そしてデータや実験結果などを活用することです。また、説得力があるスライドは視覚的効果が不可欠ということでした。

以上のように私は、今回の研修を通じて、社会人にとって重要な知識とスキルを多く身につけることができたと考えており、これらは私の今後の人生に大きく貢献してくれると感じます。今回はこのような貴重な機会を頂き心から感謝を申し上げます。

卒業生からの便り

News



人間の共存が必要

松本 憲彦



的視点も考慮されていて然りです。コロナ禍はいつになれば撲滅するかは分かりませんが、アフターコロナのご時勢に世界が撲滅に向けて一丸となつて早急な対策を講じなければならぬだろうと願います。コロナは人為的なウイルスではありません。自然の猛毒であります。早くコロナ禍が収束し一步一步平和に向かつて欲しい世の中です。

私は、今は無職ですが、社会復帰に向けて職業訓練を受け続けようと考えています。年を重ねると気力や精神力が徐々に衰退していきまますから医療リハビリとかも受けなければならぬようになります。20年前、30年前と違いそれ相応にストレスや疲労感が日常の中で蓄積されがちで規則正しい健康的な生活を送らざるを得なくなる訳です。健康と身体は命だけではなく大切な健康維持機能でもあると考えます。これからは健康習慣も日常生活では大事となつて来ます。

在学生の皆さんは大学4年間で就職して立身出世したいと考えておられるでしょう。大半の方がそうです。ですが大学在学中は自分探しもそうですし、立場や視点の違う方々とも交流を深めた方がそれこそ大學生らしい姿勢でしょう。社会に出ると敵も味方も出て来ますが、価値観や色の違う人とも関わっていかねければならぬようになります。それが社会の意義ではないでしょうか？

あと8年で50代を自分は迎えますが、40代でも努力次第できつと良い道は開けるだろうと願っています。同志社大学は「同志」という文字がある限り人間の共存の場ではないかと考えます。

今はいったん職を失つて自由の身です。大学時代は経済学部でしたが、今でも新聞で経済欄はたまに目を通しています。コロナが流行っているということに4年近く経過しても変わりありませんが、コロナ禍を食い止める為にも経済の力はどうしても必要です。コロナの現状や動向を把握するのにしても経済力が重要になってきます。私は最寄りの医療機関でコロナワクチンの予防接種をここ3年間で5回も受けてきました。コロナワクチンは理化学系の方が開発されていて、当然ですが、コロナの動向などを分析する点では経済学

不惑になっても研鑽の日々

祖父江 宏徳

地方公務員 県職員（福祉分野）

〈竹廣良司ゼミ〉



卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。

私は京都の大学に憧れて同志社大学に進学しました。学部を卒業後は、大学院に進学し、修士課程修了後は、民間の会社に就職しました。その後、福祉や心理の国家資格を取得し、現職に至っております。

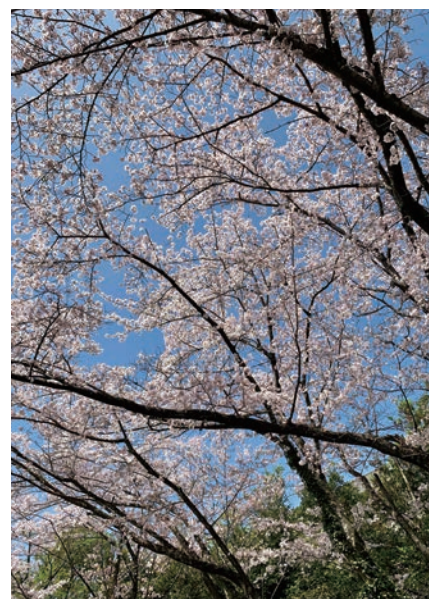
大学時代の思い出としては、竹廣先生や中尾先生には特にお世話になりました。竹廣先生のゼミ活動の中では、ゼミのメンバーと一緒にディベート大会に参加し、大会に向けて議論を重ねたことを思い出します。大学院に進学後は、計量経済学をはじめとしたテキスト

トの原典購読をしたり、実証分析のためにデータベースを作成し、SASのプログラミングを行なって、明け方にその結果を査定したことは今でも思い出されます。京都大学から来られていた森棟先生の計量経済学の授業では公式の証明を発表担当者が黒板でやるというもので、前期当初には何人もいた受講生が後期には2人になり、ほぼ毎週発表担当していたことも思い出深いです。大学や大学院で学んだ、自分で物事の本質に当たり、分析、考察し、発表や論文にまとめるということを培えたことは、私にとつての財産です。

現在私は、経済学とは少し畑の違う福祉分野で仕事をしています。しかしながら、大学や大学院で学んだ思考のプロセスや論理的思考は、現在の業務においても課題に対して調査を行い、アセスメントを行なつて、援助の指針を考え、それらをプレゼンして周囲の人の理解を得て、支援を行う関係機関や人達にアウトプットしていくということに活かされていると日々実感しています。

不惑の年齢になつてもまだ尚、惑いながら日々研鑽を積んでいるところですが、その道筋を照らしてくれているのが、大学で学んだ日々であったり、回り道をして培った経験であったりするなと感じます。

卒業生の皆さんにおかれましても、同志社大学で学んだことを大切に、悩み迷い傷つくこともあるかもしれませんが、自分らしく自身の良心に従つて歩み続けてください。皆さんのこれからの人生が幸多きものになることを願っております。





Seminar report

現役学生が語る 「わがゼミ」

荒渡 良ゼミ 鵜飼 和樹

こんにちは。私からはゼミ活動、そこから私が考えたことの2点から「荒渡ゼミのいま」についてお伝えしたいと思います。私たち荒渡ゼミは今年度、5期生となる2回生24名を迎え、2、3回生はグループごとに、4回生は個人で研究を行っています。まだまだ新しいゼミですが様々な活動に取り組んでおり、3回生は「日本政策

学生会議（ISFJ）」、「日経ストックリーグ」に出場する傍ら、有志で「同経会プロジェクト」、「ビジネスアイデア大会」などに出場し結果を残しました。様々な活動に取り組む中で、「荒渡ゼミのカラーとは何か」と話す機会は多く、私たちがこれからの荒渡ゼミのカラーを決める世代なのだ日々感じます。私は荒渡ゼミのカラーは自由なところだと考えています。荒渡ゼミではゼミの活動をゼミ生が自由に決定できます。それは様々な活動で結果を残すことに繋がったと思いますが、それ以上に自由だからこそ主体的に動くことが必要になるのだと感じました。これからも主体的にゼミ活動に取り組んでいきたいと思っています。



東 良彰ゼミ 木下 実奈美

2023年度の東ゼミは、全年あわせて66名となっております。多様なメンバーが同じ曜日に集い交流を深めています。先生との距離も近く、アットホームな雰囲気です。飲み会やゼミ合宿などでは、私たちは先生を人生の先輩として勉強や将来の夢、恋愛に至るまで様々なテーマについて話し、先生もそれに対して親身に相談にのっ

てくださいます。普段の演習では、先生がアメリカで学んでこられたマクロ経済学の研究に触れるとともに、私たち一人一人の関心に基づいたテーマを掘り下げ探求しています。今年度、私たち4年生は、コロナ後初の完全復帰となった昨年11月のEVEにて、有名企業様の監修のもと、限定ラーメンの出版を行い、大変ご好評をいただきました。振り返ってみると東ゼミは、私の大学生活に無くてはならないものでした。これらのゼミで得た経験を通じて、今後とも経済学への更なる探求とともに、人間的にも大きく成長していきたいと考えています。



船橋 恒裕ゼミ 設楽 まどか

こんにちは。私たち船橋ゼミでは福祉経済をテーマに各自が研究に励んでいます。研究内容をゼミ内で発表し様々な面から理解を深め、これからの福祉経済のあり方についてお互いの考えを共有しています。3年次春学期には、少人数のグループを作りそれぞれのグループで決めたテーマについての研究と発表を行いました。主に少子高

齢化、ベーシックインカム制度の導入について、福祉サービスなど現在の日本で課題として挙げられていることをテーマにしたグループが多く、非常に有意義なディベートを行うことができました。また、秋学期には春学期のディベートを経て各人が興味を持ったテーマについての研究と発表を行い、船橋先生からのフィードバックをいただきました。

船橋先生の温かいご指導の下、ゼミ生はそれぞれの個性を活かし自由な研究を行うことができている。これからもこの素晴らしい環境に感謝しゼミ活動に取り組みたいと思っています。最後に、先輩方のご活躍を心からお祈り申し上げます。



原田 禎夫ゼミ 池澤 秀太

私たち原田ゼミは2023年度に新設され、3名のゼミ生で活動を行なっております。研究テーマは「プラスチック汚染からの脱却をめざす実践型地域研究」で、世界的な注目を集めるプラスチックごみ問題について、フィールドワークや座学を通じて学んでいます。春学期には、プラスチック汚染の全体像や世界共通の海洋ごみの評価手法・オンラインごみマップ

を活用した散乱ごみの評価手法についてご教授いただき、実際に北海道の木古内町で調査合宿を実施しました。

秋学期では、木古内での調査を踏まえ、海洋プラスチックごみをテーマにした環境旅行プログラムを受け入れている舞鶴市野原地区で聞き取り調査を行い、報告書を作成しています。思うようにいかないことも多いですが、先生のアドバイスを頂いたり、ゼミ生同士が協力して試行錯誤を重ねたりすることで報告書作成に必要な能力を日々養っています。

現在3回生は就職活動が本格化し、ゼミ活動と両立しながら多忙な日々を送るゼミ生も多いですが、これまでのゼミ活動を通じて得た能力や学びを活かして日々精進していきたいと考えています。



本領 崇一ゼミ

本領ゼミでは、情報経済学およびゲーム理論を中心に学んでいます。私たち5期生は、2年次に英語のテキストを用いて計量経済学を学び、同時に英字新聞を用いたプレゼンテーションを通じて現代社会の諸問題に対する洞察を深めました。3年次では教科書及び海外の研究論文を輪読することでゲーム理論の理解を一層深め、その

学びの集大成として、慶応義塾大学、名古屋大学、大阪大学とのインターゼミナールに参加しました。「ゲーム理論で考えるSDGs」というテーマのもと、ゲーム理論のモデルを適用し、社会的課題を分析しました。

本領ゼミは、国際的視野と主体性を重んじるゼミです。長期にわたる海外経験を持つ本領先生の下、英語による経済学の学習機会に恵まれています。また年度ごとに学生の興味に応じて異なる方法でゲーム理論を学習しています。今後、学生の意見を尊重する本領先生と、個性豊かな学生たちとともに、ゼミ活動に力を入れて参ります。



笠井 高人ゼミ 木部 颯人

笠井ゼミは経済思想史を軸としながら、様々な経済事象や社会課題などについて笠井先生と共に議論を行っている、「議論好き」のゼミです。今年度はゼミ生が4年生のみとなったことで、卒業論文の製作に注力することができました。まず春学期は前年度から続いている経済学方法論に関する書籍の輪読をしつつ、卒業論文の方向性を決定するという作業を並行して行いました。その後、

秋学期は自分たちが対象とする人物や事柄に対しての研究と執筆活動に努めました。

コロナ禍が明けたこともあり、秋学期の途中で同志社びわこリトリートセンターにてゼミ合宿を行うことができました。合宿では各自の研究について報告し、先生や他のメンバーからの意見を得ることで自分たちの研究を見つめ直す良い機会となりました。それ以外の時間は皆での食事や、談笑したりすることを通して親睦を深めることができました。これからも、少人数を活かした実のある学びにゼミ生一同励んで参ります。



岸 基史ゼミ 吹戸 亮太

同志社大学経済学部OBの皆様、こんにちは。岸ゼミです。岸ゼミでは現在、ゼミ生13人で、座学では自分たちが行う経済活動と自然のこれからの関係を考える「エコロジー経済学」を、フィールドワークでは「里山きゃんぱす」でエコロジー経済学を実地で学ぶ環境保全活動を行っています。1年間を通じ、保全活動と並行

して地域の人たちや学生を呼んで開催する環境教育イベントやそこで収穫できたものを販売することもしています。座学だけにとどまらない、血の通った学問をしているといっても過言ではないでしょう。（昨年度は父母会イベントを開催しました！）また稲作や野菜の植え付け、雑木林整備のための伐採、猪解体など本当に経済学を学んでいるのかと言われるほど貴重な体験を日々の活動の中で体感しています。

来年度には岸さんが定年退職されることもあり、自分たちが最後の岸ゼミ生となるので、この一年を学びのある年にしていきたいと思っています。

（私たちの活動は「岸ゼミ ブログ」で検索すると出てきますので是非ご覧ください！）



北川 雅章ゼミ 山本 愛佳

私たち北川ゼミは「自由」と「笑顔」をモットーに活動しています。2年次では書籍を通して日本経済について深く理解し、ゼミ生全員に向けて発表をしました。この事により、自分だけが理解するのではなく、全員で日本経済について理解を深めることが出来ました。3年次ではディベート大会に出場しました。ディベート大会

の議題である『解雇規制を緩和すべきか否か』について調べ上げ、話し合いを重ねました。私たちは「自由」に物事を進め、「笑顔」を絶やす事なく様々な議論をすることが出来ました。そして、1グループが決勝進出という結果を残すことが出来ました。

私は、このゼミを選び、北川雅章教授やゼミ生と出会って、一緒に過ごすことが出来て、幸せに感じています。私たちはこれからそれぞれの道へと進んでいきます。その途中で困難な壁にぶつかることもありますが、と思います。ですが、「笑顔」を忘れることなく強く生き抜いていきたいと思っています。



北坂 真一ゼミ 稲垣 龍太郎

こんにちは。北坂ゼミ3回生の稲垣龍太郎です。北坂ゼミでは、データを用いた計量経済分析をテーマに活動をしています。2年次は書籍『統計学から始める計量経済学』を輪読し、統計学や計量経済学についての基本的な知識を身につけました。そして、3年次は1月のゼミレポート提出に向けて参考文献の収集や、ソフトウェア

を用いたデータ分析を行っています。具体的には、計量経済分析が可能なテーマを選び、集めたデータをRというソフトウェアを用いて回帰分析を行います。活動は一見難しそうに見えますが、基本的なコンピュータの扱い方は先生が説明してくれますし、データ分析を行うことのできるものならテーマは自由なので、自分の好きなテーマを選ぶことができます。現在のゼミ生は稲垣1人ですが、先生が毎回親身になって教えてくれます。経済学部で最も規模が小さい北坂ゼミですが、私はこれからも活動に励んでいきます。



小橋 晶ゼミ 矢吹 彰大

小橋ゼミでは、大学2年次に応用ミクロ経済学のゲーム理論という分野について学んでいる。相手の行動を予測しながら、どのように行動すれば利益を最大化、またはリスクを抑えることが出来るのかを分析する事が目的である。実際に企業の立地戦略や価格競争、参入戦略などのテーマを扱って、実際に行われている戦略がなぜ効

果があるのかという検証を行っている。数式を使って検証する理論ではあるが、市場の優位性を保つ為に不可欠な行動プロセスとしてビジネスシーンでも幅広く応用されている学問でビジネスだけでなく、転売市場等の日常生活も研究対象であることにゼミ生は興味を持って学習している。

大学3年次には、ゲーム理論で学んだ内容を活かした活動をゼミ生自身で話し合って決定している。今年度は、ビジネスアイデアコンテストへの参加と企業と協力して商品開発を行ってきた。ゼミ生が主体となって活動内容まで決定できることがこのゼミの特徴である。



小林 千春ゼミ 廣瀬 友朗

小林ゼミは、ビジネスアイデア大会やディベート大会への出場や論文発表会に向けたデータ分析など幅広い分野の活動に取り組んでいます。1月に行われた迫田ゼミ・竹廣ゼミとの論文発表会では、私の班は日本の観光消費額に関する実証分析を行いました。統計解析ソフトウェアを用いて、主成分回帰分析やパネルデータ分析などの分析を行いました。私は、授業で、計量経済学に関する授業を多く受講しており、そこで得た知識を実際に活用し、発表まで行える機会をゼミで提供していただき、非常に良い経験になりました。

また、今年度行われたビジネスアイデア大会では、小林ゼミ3年連続となる優勝と準優勝を受賞することができ、ディベート大会では、8連覇を達成しました。これらすべての活動では、先生やSAの先輩方についても相談・アドバイスができる環境が整っており、手厚くサポートをしています。小林ゼミでは、このサポートを受けた学生がそれを後輩に伝えるという良い循環が生まれており、長い間続けて結果を残せている要因であると感じています。私個人としても、ゼミ活動で得た経験を活かしながら今後も学びを深めていきたいと思っています。



小藤 弘樹 ゼミ 杉浦 奏子

こんにちは。私たち小藤ゼミは現在、小藤先生を含め計17人で活動しています。2回生は福祉をテーマに掲げて現在グループ研究を行っています。毎回の授業で先生にフィードバックをもらい、レジュメの完成を目指しています。3回生は昨年の秋に法政大学との合同ゼミを経験しました。同志社大学は「待機児童問題」「京都市

の人口減少」の2テーマについての研究結果を行いました。対面ならではの活発な意見交換と他大学の学生との交流ができたことは大変貴重で思い出に残る出来事だったかと振り返ります。卒業を控える4回生は現在卒業論文を執筆中です。これまでのゼミでの活動を生かしつつ、突き詰めたい議題について各々が論文を仕上げていきます。

このゼミの特徴は他学年の活動にも参加することで風通しの良い場が築かれていくという点です。壁に当たって悩んだとき、相談できる先生や先輩方の存在が非常に自分の支えになっていると感じます。



久保 徳次郎 ゼミ 大野 杏輔

私たち久保ゼミの3回生は9名で活動しています。2023年度秋学期には、各自が興味を持った経済学の分野に焦点を当て、授業内での研究成果や理解を発表し合い、卒業論文執筆に向けて一層の進展を遂げました。関連科目では、外国為替市場に関する重要なトピックに焦点を当て、為替決定のメカニズムやリスクヘッジ、オプション取引などについて学びました。久保先生は、卒業研究において信頼性の高い情報源を選ぶ方法や、書籍の選定についてのアドバイスをしてくださいます。また、大学外でも食事会などの交流イベントを定期的に開催し、ゼミ生同士の絆を深めることで学内外の連携を強化し、より有意義な大学生活を送ることができています。今後も、久保ゼミ生

は繋がりを大切に、卒業論文執筆のさらなる充実を図ると同時に、大学生としての経験や成長も積極的に追求していきます。



三俣 学 ゼミ 楠瀬 桃子

私たち三俣ゼミは今年度、新たに2回生15名の仲間を迎え、3学年合わせた45名で活動を行ってきました。資源・環境問題にアプローチする当ゼミでは、三俣先生の著書『森の経済学』、『自然アクセス』を手掛かりとし、座学とフィールドワークの双方から理解を深めています。フィールドワークでは京都御苑や大文字山、京都府立植物園などの大学近隣の自

然に直接触れ、観察を通じて学びを深めました。例年通り、2・3回生は、六大学合同ゼミに向けてグループ研究を行い、それぞれの自由な発想を大切にしつつ、三俣先生の確かな指導を受け、疑問を追究することへの楽しさを実感しました。特に3回生は、テキストの輪読ゼミで得た社会調査の基礎知識を踏まえた、より精度の高い研究になったと思います。4回生はこれまでの学びを活かし、

卒業論文執筆に向けた個人研究を行いました。また、コロナ禍が落ち着いたことでゼミ活動の幅も広がり、3・4回生合同で合宿を実施するなど、学年を超えた交流も増えました。今後もゼミ生一同、ゼミ活動により一層精進してまいります。



宮本 大ゼミ 3年生幹部一同

宮本ゼミでは、データ分析ソフトSPSSを用いたデータ分析のスキルを身につけ、実際に分析を行うことを通じて、物事を客観的に捉え、あらゆる角度から思考する力を養っています。2年生から3年生の前期にかけてはグループワークを通じてデータ分析についての理解を深めます。そして3年生の後期から各自の興味をもとに個人研究を行い、4年生から始まる卒業論文に向けて準備をしています。

私たちのゼミでは、同期・先輩・後輩などのゼミメンバーをはじめ、学外の人たちと交流する場が数多くあります。いろいろな人たちとの交流を通じて、自らの視野を広げ、これからの生き方を考えていく知識と知恵を蓄積できます。コロナ禍で制限された大学生活を送っていた中、ゼミ活動が始まったことにより、私たちの学校生活に光が差し込みました。このゼミに入り仲間たちと出会えたことに本当に感謝しています。

宮本先生は、勉強面では親身に相談に乗ってくださり、交流の面でも全力でサポートしてくださいます。私たちは宮本先生のもとで学ぶことができ、とても充実した時を過ごしています。



宮崎 耕ゼミ 板谷 海利

本年度は27期生27名を新たに迎え77名で活動しています。2年生は「ルールを探せ!」と「ウェブサイト構築のハウツー」の2つの課題、3年生はコンテストへの応募を視野に「GXと公共交通」をテーマとするウェブアプリの開発、4年生はAIや多様性、環境問題、ビジネスなどをテーマとする卒業研究にそれぞれ取り組んでいます。

春以降、新型コロナウイルスの影響が和らぎ、ゼミの恒例行事が復活しました。夏には4年振りの海外合宿でシンガポールを訪れました。「COMEX2023」の視察では、アニメやゲームなどのエンタメ分野での日系企業の実在感が印象的でした。EVEには「プリクラ&メイドカフェ」を出店し、行列ができる盛況となりました。会食形式で行われた秋の良心会（宮崎ゼミのOB・OG会）では、多くの諸先輩方の警咳に接する機会がありました。春にはオンラインの良心会も開催されています。是非ご参加ください。最後になりましたが、先輩方のご健康とご活躍を、ゼミ生一同心よりお祈り申し上げます。



宮澤 和俊ゼミ 田窪 ちゆ

みなさんこんにちは。宮澤ゼミは2年生17名と3年生2名で、主に公共経済学をテーマとした研究や分析を行っています。2年生は実証分析に取り組みしており、エクセルを使って散布図の作成や回帰分析をしています。講義は、仮説を立てる↓データを集める↓分析する↓理由を考察する↓自身の言葉で発表する、という

流れで進みます。実証分析を通じて、仮説を立てる力や分析結果を読み取る力を養っています。3年生は学生プロジェクトに取り組んでおり、「ふるさと納税で京都市の財政難を改善する」というテーマの下、調査や取材を行っています。京都府独自のふるさと納税の取り組みを分析し、京都市の財政に活かす方法を模索中です。このように宮澤ゼミでは、分析を行うだけでなく、ゼミ生の思考力を養うことも重視しております。今後宮澤先生にご指導いただきながら、ゼミ活動に邁進していく所存です。



茂見 岳志 ゼミ 木村 凌将

茂見ゼミの広報の木村凌将です。おそらく受講の形式自体は前年度の方たちと変わらず、メカニズムデザインとそれを軸にした専攻をしています。学術書を皆で読み解き、各章を班ごとに研究するといふもので、茂見ゼミは他ゼミと比べても多くの人がいるゼミでありますので、その発表にも多数のゼミ生が関わることで出来る充実した学習が出来ました。また、ビジネス大会やディベート大会にも出場し、1チームが決勝に出場するなどイベントにも力を入れています。

2023年からはコロナの落ち着きもあり、夏は歴代の卒業生も含めた全体でBBQを行いました。添付した写真はBBQの集合写真です！今後もこのような全体で交流する企画を茂見先生と考えていきます。学業もプライベートでも力を入れている茂見ゼミで、これからも充実した学生生活を送っていきます！

「もみ充！」



長澤 勢理香 ゼミ 茨 幸輝

こんにちは。長澤ゼミ3年生の茨幸輝と申します。本年度の長澤ゼミは新たに2期生22名を加えた計49名で活動をしています。2年生は経済に関するテーマを元に研究を進め、個人発表を行いました。3年生は11月に同志社大学で他大学が集まって研究を発表し合う、6大学合同インターゼミがありました。私たちは3チーム

に分かれてそれぞれインターゼミに向けて半年間グループ研究を進めて参りました。その結果1チームはブレン賞、1チームは1位という結果を得ることができました。また長澤ゼミでは10月末に、全学年合同でバーベキューをしました。横の繋がりはもちろん、縦の繋がりも強くしていきたいと考えております。自身、長澤ゼミの良いところとして、他の人の意見を尊重し合える環境が整っていることだと考えております。我々が長澤ゼミの歴史を作っていくのだと自覚し、これよりも邁進して参ります。長澤ゼミを温かく見守ってくださると幸いです。ありがとうございました。



新関 三希代 ゼミ 江野 駿介

私たちは、新関三希代教授のご指導のもと、Bloomburg ESG投資コンテスト、日銀グランプリ、そして日経ストックリーグの3つの論文大会に出場いたしました。本年度も昨年度に引き続き、新関先生や先輩方をはじめ、OBOGの皆様や学外の方のご協力をいただき、大変充実したゼミ生活を送ることができました。B

loomburg ESG投資コンテストでは「ESG課題に立ち向かうZ世代ファンド」というテーマのもと論文を執筆し、出場した全チームがファイナリストに選出、また昨年に引き続き1チームが優勝という成績を収めることができました。日経グランプリでは「年金給付の財源確保」に関する政策提言を行い、敢闘賞を受賞いたしました。日経ストックリーグでは青山学院大学とインターゼミナールを実施するなど、約4ヶ月間にわたり論文を執筆いたしました。今後、ゼミを支えてくださるOB・OGの皆様、そして新関三希代教授への感謝を忘れずに全力でゼミ活動に取り組んで参ります。



西岡 幹雄ゼミ 福本 雄大

私たちは、西岡幹雄先生のご指導のもと、「地域の潜在価値の発見と新たな経済社会インフラの展開」コロナ後の地域・都市のあり方と世界の変容」をテーマに、輪読で得た知見を踏まえて、グループでプロジェクト研究をしています。現在は、北海道から沖縄まであらゆる地域に焦点を当てて実地調査を行い、百貨店・フードデ

リバリー・酒造・繊維・観光・エネルギー・農業など、ニッポンの特色ある産業のポテンシャルについて探究しています。

また、コロナ禍が明け、他大学(南山大学・大阪府立大学・大阪経済大学)との交流フォーラムを対面で開催し、研究報告を行いました。交流を深め議論を交わし、多様な視点を取り入れることができ、研究に磨きをかける良い機会となりました。ゼミ内では、合同ゼミをはじめ、懇親会や合宿などを執り行い、学年の枠を超えて絆を深め切磋琢磨しながら、実りある学生生活となるよう、日々活動に励んでいます。



法雲 俊栄ゼミ 小川 琳久

我がゼミ。このテーマを聞き、真つ先に浮かんだことは一言、「最高」というものであった。私が所属する法雲ゼミは2023年度から新設されたゼミであり、第一期生という形で法雲教授のもとで勉学に励むこととなった。私のゼミのテーマは「社会科学における情報システムの研究」である。テーマの通りプログラミング等の

学習を通じ社会科学について理解を深め、実践的な活動を行い、見識を深めてゆく。活動としては、javaやpython等の少人数ゼミだからこそ可能な踏み込んだ演習、それを経ての地域の学生との交流であった。ここで先程述べた最高の所以について述べたいと思う。それは法雲教授の人柄だ。教授は少し距離が遠いものの、近づき難い存在という勝手な先入観を全て打ち壊してくれ、どんな些細な質問にも丁寧にわかりやすく回答してくださる。他の学生とゼミに入るタイミングはズレてしまったが、私は法雲ゼミに入り、質の高い学習に望めていることを幸せに思う。

奥田 以在ゼミ 阿部 礼佳

先生と先輩方で紡いでくださった歴史も10年となり、10期生となる我々は、「和傘」「西陣織」「米菓」の3班にわかれ、日々研究活動を行なっています。目下、和傘のチームが京都知恵産業創造の森の地域連携支援事業に採択され、事業実現に向けて奔走しています。この和傘研究の土台となっているのは9期生が政策研究交流大会で提言した論文であり、先輩

方の期待を一身に背負い、活動しています。

また、コロナ禍を明け、様々なことが動き出した一年でもありました。プロジェクト活動では、3学年合同ゼミでの体育館を貸し切った運動会や、飲み会を行いました。今年度は数振りにEVEでの野外出展を行えることになり、ゼミ一丸でこれに奮起しました。私たちが冬の出店に選んだのは「どて焼き」で、味の決定に至るまで多くの時間を費やしました。初めての試食会で、先生が笑みを溢し「美味しい」と言ってくれた時の感動は、今でも思い出します。当日足を運んでくださったOB・OGの方々からも温かいお声がけをいただき、期を越えた繋がりに脈々と受け継がれてきたわがゼミを感じました。



小野塚 佳光 ゼミ

木村 夏希

私達は、春学期には昨年度秋学期に引き続き、「学び直しケインズ経済学」というテキストを使用し、ケインズの理論をもとに現代の国際経済について学びました。夏休みには新型コロナウイルス感染症の影響により開催することができなかったゼミ合宿を行い、ゼミの先輩方も含めて皆で親睦を深めました。秋学期からは「国家と

市場」というテキストを使用し、「構造的権力」という概念から国際政治経済の構造、国際関係を読み解き、国際的な覇権について思考を巡らせることの重要性を学びました。3班程度に分割し、各担当部分をパワーポイント形式で発表するという形式をとっています。またサブゼミでは、現在世界各地で起こっている様々な国際政治経済に関する問題を紹介し合い、問題に対してどのように対処するか等を話し合い、理解を深めました。ゼミ生全員が国際政治経済学に真剣に向き合い、知見を深めることが出来たので良いゼミ活動になったと思います。



太下 義之 ゼミ

島袋 盛太

こんにちは。太下ゼミ4期生です。私たちは総勢41名で、主に文化政策の研究を行っております。研究対象は戦後期における小説形態や来たる大阪万博の開催意義など、多岐に渡ります。扱う議題並びに参考文献に関してはチーム毎に先生と決めております。そして各自の意見をディスカッション形式で提示することで、多角的な視点を得ることはもちろん、自身の考えをより一層深める機会ともしています。

今年はコロナが落ち着いたこともあり、外部講師をお呼びして特別授業を実施することができました。教育、物販、出版業界の方々から、貴重なお話やアドバイスを伝授していただき、授業の枠を超えた有意義な時間を過ごせました。

我がゼミは、多様な趣味、バックグラウンドを持つメンバーが集まり、それぞれの見解を共有しながら力を蓄えております。4期生は就職活動に並行して、各自卒業研究に取り組んでゆくこととなりますが、先生のご指導ご鞭撻のもと、密度の高い研究となるよう邁進してゆく所存です。



迫田 さやか ゼミ

野坂 憲巨

こんにちは。迫田ゼミ2期生ゼミ長の野坂憲巨と申します。私たちは主に計量経済学的手法について、迫田先生のご指導の下、学び、活動しております。具体的には、2年次生は、統計学のテキストを用いた発表を通して理解を深めるとともに、エクセルを用いて実際にデータ分析を行い実用的な分析力を身に付けています。3年次生は、2年次生の時に学んだ知識を

活かし、「ISFJ日本政策学生会議」という論文大会に向けて、班ごとに分かれ論文執筆やその論文のプレゼン資料の作成などを行っています。4年次生は、これまでの経験を活かし、個人で卒論の作成に取り組みます。これらの活動をベースとし、論理的思考力や数学的思考力を高めながら、合同ゼミ・インゼミなどの活動も積極的に行うことでプレゼン力なども養っています。

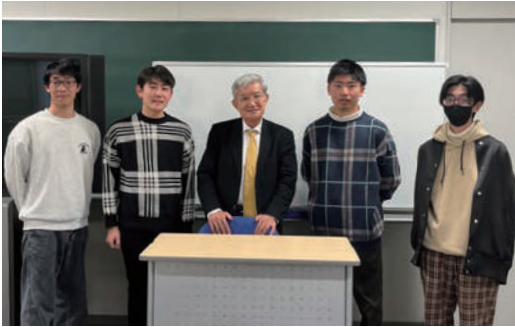
また迫田ゼミでは、同志社大学経済学部OB・OGの方々による勉強会が多く設けられ、就活の相談など将来について考える機会がたくさんあります。こういったOB・OGの皆様、迫田先生、その他私たちの活動を支えてくださっている皆様への感謝を忘れずに、ゼミ活動に全力で取り組んで参ります。



鹿野 嘉昭ゼミ 半澤 優斗

現在の鹿野ゼミの活動内容は鹿野先生が定めた本を輪読しています。先輩方は人数も多かったと聞いているので同じカリキュラムなら発表の回数は少なかつたと思います。しかし私たちの代は4名のゼミ生だけなので、2週間に一回は発表ということで少し大変です。鹿野先生にはよく質問攻めされており、非常に勉強になっていきます。ただ

そんな鹿野先生にも、抜けているというか、面白いところがあり、それが4人しかいないゼミ生を覚えることができないうことです。指名で質問するときに何度も言い間違えており面白いです。質問攻めの時は怖いですが、言い間違えるギャップがあり、一安心しています。また、私たちには先輩がいりません。そのため先生はそろそろ引退されるということで(正確にはわかりませんが)、先生に会いに来るのも良いかもしれません。



菅 一城ゼミ 田中 愛菜

こんにちは、菅ゼミです。私達菅ゼミでは、2回生の秋から約2年半かけてじっくり卒業論文に取り組んでいます。テーマの設定からそれに沿った研究、発表に至るまでを全て各個人で進めるため、自主性と責任感を持たなければいけません。

この1年半活動を続けていく中、ゼミ生一人一人が、自分が必要なのかを模索し、主体的に研究を進めてきました。菅ゼミでは、様々なテーマに基づいた研究が展開されています。異なることに興味を持つ学生同士が新たな視点や疑問点を議論することで、研究がより良いものとなるように切磋琢磨しています。

時には、自分の進む方向が正解なのか、今後どのように進めればよいのか迷うこともあります。そんな時は菅先生がわかりやすく、的確なアドバイスを私たちの研究をサポートしてくださいます。研究

以外のことにも親身に学生の声を聴いてくださる菅先生のもとで学べる貴重な機会を大切にしていきたいです。

これからも、ゼミ生一人一人が主体性を持ち、互いに助け合いながら、充実したゼミ活動となるように邁進していきたいと思ひます。



竹廣 良司ゼミ 前野 暁也

私たち竹廣ゼミは「企業の組織と戦略に関する経済分析」を演習の研究テーマとして活動しています。2年次はゼミ対抗のデイベート大会に出場し、5チーム中3チームが決勝大会に出場するという成績を収めることが出来ました。この経験を通して、論理的思考力やスピーチによる表現力が身に付きました。また限られた時間の中で成

果を残すために、チームの垣根を超えて協力することで、ゼミ全体の一体感を高めることが出来ました。3年次は企業や産業の特徴について自らテーマを設定し、演習関連科目で学んだSASのプログラミングスキルを用いて重回帰分析を行いました。また本年度は経済学部ご支援のもと、フードロス改善するための製品開発と仕組みづくりに関する学生プロジェクトに挑戦しました。協力企業様との交渉に苦悩し、結果的に製品化・実装までたどり着くことはできませんでしたが、ビジネスの場での実践的な学びを得る貴重な経験となりました。



谷村 智輝 ゼミ 神田 翔太

私たちは「資本主義のグローバル化」というテーマのもと、その歴史や基本的理論、問題点や将来性について複数のテキストをもとに学習しています。授業は主にプレゼン、ディスカッション、フィードバックのサイクルで進行しております。各々が緊張感をもって取り組み、確実な成長を実感しています。普段の講義だけでなく、外部講師の方に講演をしていただくことで、社会とのつながりを強く感じながら学習できるゼミでもあります。

谷村ゼミはオンオフがはつきりしている点も魅力で、学生主体で企画するゼミ生の日ではバーベキューや運動会などを通じて親睦を深めています。今年度はコロナも明けたため、数年間行っていなかった他学年との交流も再開しました。写真は2023年に開催した新歓コンパのものです。

2024年は以前よりも活発な活動を行うことを目標に、学びの場だけでなく、仲間とのつながりを大切に、共に成長できるゼミにしていきたいです。



角井 正幸 ゼミ 瀧本 大也

私たちは角井ゼミは、「アメリカにおける経済問題の実証分析」を演習のテーマとして活動しています。2年次秋にはExcelを用いて、データ分析の具体的な方法を学びます。課題ごとに変わるチーム内で、ゼミ生同士の仲とデータ分析の知識を深めます。3年次春には、伊藤光晴氏の『グローバル』や、ピケティ氏の『21世紀の資本』の精読を通じて、アメリカ経済の発展を学ぶとともに、文章の読み方を学んでいきます。3年次秋には、次年度の卒業論文の提出に向けて、卒業論文の構成や、始まりの部分を考えていきます。

角井ゼミでは、単に学術的な知識を深めるだけでなく、パワーポイントやエクセルの使い方、資料の読み方、卒業論文の構成の仕方といった学術的な知識以外の、実践的で将来的に役に立つ知識を学ぶことができます。ゼミ生同士も食事会を行うほど仲もよく、和気藹々とした雰囲気です。これからもゼミ生一同は、ゼミ活動に精進していく所存です。



和田 喜彦 ゼミ 小山田 亮大

和田喜彦ゼミでは、現在の持続可能な経済システムから持続可能な経済システムへのパラダイムシフトを目指して、エコロジー経済を勉強しております。エコロジー経済学は自然生態系を基盤とした経済システムについて考える学問です。そのため、資源環境問題が顕著となった現代において最も重要な学問であると言えます！

和田喜彦ゼミでは、4年生12名、3年生14名、2年生11名で活動しています。和田先生の教えの下、少人数のグループ毎に日々研究を行っています。

活動の中でも、奈良県生駒市の里山きゃんぱすでの農作業と自然観察や、大文字山登山、新島裏参などのフィールドワークにも力を入れています。

また、昨年11月には三学年合同ゼミ合宿、12月には五大学環境ゼミ合同合宿を行いました。これまでの研究成果を発表し合うことで、互いに高め合うことができました。

今年度の研究内容としては、米余り問題の解決、給水スポット利用促進、荒瀬ダム撤去の影響、人工芝の環境影響など、多岐にわたる問題に取り組み、成果を上げることができました。

これからも和田先生の下で、仲間と協力しながら、研究を行って参ります。

ご精読いただきありがとうございます。



和田 美憲ゼミ 谷崎 蓮

私たち和田美憲ゼミ2回生は、根は真面目ですが楽しむ時は楽しめる個性的なメンバー25人で活動しています。現在は、ゼミの研究テーマである「行動経済学」の基礎を学んでいる最中であり、日々ブレゼンテーションやグループワークを通して、起きてから寝るまで行動経済学についての学びに励んでいます。

和田先生のユーモア溢れる授業についていくのが大変な時もありますが、先生は私たちの身近な経験に結びつけながら行動経済学についてご教授してくださいます。授業では、流行りの恋愛ソングの歌詞について行動経済学的に討論をしたり、私たちがそれぞれブレゼンテーションへの準備を始めた期間について行動経済学的に分析したりと、様々な視点、角度から物事を取り上げること私たちの考えや発想力を広げて下さいます。授業が面白く楽しいのはもちろんであり、私たちの仲を深める時間としても授業の時間を与えてくださいます。12月後半には、授業の時間でクリスマスパーティーを行い、キー作りやゲームなどを行いました。そして、ゲームでは和田先生が私たちの誰よりも楽しんでくれたことが私は印象深く心に残っています。

最近では、先輩のそれぞれの研究の発表を見せただけで、これから先の自分たちの研究についてのイメージを浮かべることができました。最終目標である自分たちの理論を見つけていくことを目指して、これからもゼミ全体で協力しながら、ゼミ活動に遊びや、イベントなど全てのごことに全力で取り組んでいきたいと思っています。



山森 亮ゼミ 吉田 尨晟

コロナによる規制も段々と過去の思い出のなかに紛れていくのを感じるとともに、歳月の流れの早さには毎度のこと驚かされます。コロナの苦境のなかでの大学生活となったOB・OGの方を含め、皆様に我々山森ゼミの活動がコロナ禍を乗り越え、再び活況にあることをお伝えできれば幸いです。さて、本年度は、活動の指針を固めるべく、それぞれ本の要約から始まりました。その他、山森教授の広範な人脈を活かした、多様なバ

ックグラウンドを持つゲストスピーカーの方にも多くお話をいただきました。その中で湧いた疑問や関心を基に、そこから班での研究が始まりました。山森教授は我々に、文献を読むことに加え、実になるかどうかは別として、とにかく足で研究することに念を押されました。コロナによる影響もあってか、足が重くなっていた我々でしたが、中には宗教団体にお話を伺ったりする班もできたりと、それぞれ固くならず自由にフィールドワークを展開できました。また、今年度は一次募集から多くの応募があり、更に活発さに拍車がかかりました。

秋学期からは、2回生と3回生がそれぞれ合同でグループとなり、上下の壁なく主体的に研究を進めています。これからも更なる良質なゼミ生活を送れるよう、日々精進してまいります。OB・OGの皆様におかれましても、益々のご活躍をお祈り申し上げます。



横井 和彦ゼミ 谷口 匡

中国経済を研究している横井ゼミには、中国出身、体育会所属、YouTubeチャンネルを持つ人、ラップをやる人など様々な面で多様なメンバーが属しています。正解は一つではないという価値観の下、卒業後の進路も多様です。各方面で活躍する先輩に進路を相談できたことは心強かったです。グループワークと発表を主とする

ゼミのスタイルでは自主性が尊重されます。進め方を口うるさく指導されることはありません。同志社精神の自由と責任が表れているのでしょうか。個性あふれるメンバーとのワークは刺激的でした。

私たちは横井先生の人柄も大好きです。常に自分らしくいる横井和彦の存在は私たちが肩肘張らずに自分らしくいることができます。時折開催された食事会では先生含め本音で語り合ったことが楽しかったです。10年後に集まったときにメンバーがどうしているのか考えると楽しいです。コロナがなければ中国に行く計画もありました。



四谷 晃一ゼミ 小倉 洪克

我ら四谷ゼミが主に取り組んでいる学習内容としては、教育の経済学というテーマを中心にそれと関連したテキストの輪読を行い、経済的な観点から教育の社会における役割、または教育が経済にもたらす役割について学習していません。教育は学生の能力向上だけではなく、受験及び進学等の教育に関連したシステムから生まれる様

々な経済的な仕組み、思惑について深めていき、教育を中心とした大きな経済的な視野を持てるように学習を進めています。グループで分担し輪読で学習した内容を発表形式で共有することにより、発表の経験の累積と、効率の良い伝達と資料の作成の技術も身に着けます。また、今年度はJR西日本様が開催されたビジネスアイデア大会、他ゼミの方々と合同で行うインゼミ、デイベート大会などの講義外の活動も行いました。

何より特筆するべきなのは、ゼミ生の層の厚さです。個性豊富な面々は時に自らゼミ内で催し物を行い、ゼミの雰囲気と結束の良さは随一だと自負しています。



小暮 憲吾ゼミ 依田 未羽

私たち、小暮ゼミは今年度から実施されているゼミです。特定のゼミに属していない学生で構成されておりプレゼミとして活動しています。今年度からの活動ということもあり二十人弱ほどのゼミ生と先生で話し合い、今学期は輪読をメインに活動を進めました。就職氷河期世代に目を付け日本社会を経済的な側面から分析した本

を輪読の対象と決め、四つの班に分かれ発表しあうことで、就職氷河期世代内の経済格差およびその内部格差が社会全体に及ぼす影響について考えました。

また輪読のほかに、同じようにプレゼミとして活動しているもう一つのゼミと合同でデイベートを行いました。自分たちが調べ持ち寄った情報に説得力を持たせるための話し方・相手側の主張のもらさを見つけるために短い時間内で情報を精査する力など様々な能力を伸ばす必要があると身を持って体験できた良い機会でした。今後は今学期で見つけた課題に対処する力を身に付けていきたいです。





退任の先生からのご挨拶



田中靖人



同志社大学に來させていたから20年半が経過しました。早いものです。その前に二箇所の大学に奉職し適当なタイミングで動いて來たのでいつも新人のような気持ちでいましたから、このような日が來ることは最近まで念頭にありませんでした。同志社にお世話になったときすでに50歳になっていましたので、同志社では私よりも先輩にあたる先生方がまだまだたくさんいらっしゃいます。その面でも先に出て行くことにいささか戸惑いを感じています。学生時代は京都に在住し同志社ではない大学に通っていたのですが、同志社については「国際色豊かな大学」というイメージを持っていました。しかし、私自身が同志社大学の一員になることよって、図らずも必ずしもそうではないことが証明されたかもしれません。

元々理科系の学部を卒業し、一度民間企業に就職したこともあります。その後学習塾の講師などをしていく間に経済学に興味を持つようになり、あらためて経済学研究科に入学して研究を始め今に至ります。理系学部卒業から経済学研究科入学までの5年間は毎年のように身分が変わる変化に富んだ時間を過ごしたので、それから30年以上の期間が短く感じられます。同志社ではたいへん自由な雰囲気の中で快適な環境を与えられて研究に勤しむことができました。十分ではないかもしれませんが自分の能力一杯の結果を残せたのではないかと思います。教育面ではおせじにも人気のある上手な教員ではなかったかもしれませんが、私の拙い授業を受けてくださった学生諸君、元および現ゼミ生に心から感謝いたします。今の良心館ができる前、田辺のキャンパスに週1、2度通ったことも懐かしく思い出されます。以前いた大学では大学院の教育に十分に関わることができなかったので多くの人数ではありませんが同志社に來てから大学院生の指導に携わることができたのはとても幸せなことでしたし、それが同志社に來ることを決断した一つの理由でもありました。大学行政の面ではあまり大きな貢献はできませんでしたが、大学院の教務主任や研究主任をさせていただきました。無難に過ごせたのは先生方や事務の方々のご協力のおかげだと深く感謝申し上げます。幸い私の専門はあまりお金のかからない理論経済学の研究なので、今後も可能な範囲で研究を続けて行きたいと考えています。たいへんお世話になりましたとうございました。本を借りたりなどでたまにキャンパスに來るかもしれません。そのときはよろしくお願いいたします。

数理で考える

落合仁司



同志社大学に42年奉職した。大学教授の仕事は研究、教育、大学行政、社会的貢献の4つだそうだが、ここでは研究についてだけ書こう。

僕の研究は、私的な経験を数理で思考することだ。たとえば芸術を創造する私の経験、美に享樂する私の経験といった極私的な経験を数理で思考する。この場合、芸術も美も、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚といった感覚で捉えられる形、色、音、感触、味、匂という像、感覚像だ。したがって芸術を創造する私は感覚像を創造する私であり、美に享樂する私は感覚像に享樂する私だ。

このとき感覚像を創造し享樂する私の体験は、私と感覚像という名詞と、創造すると享樂するという動詞で記述されている。最新の言語学、認知言語学によれば、

ば、名詞とは対象を指し示し、動詞とは対象間の関係を指し示す。さらに言葉の意味は定義可能ではなく、一つの典型例、プロトタイプの周りで家族的に類似しているに過ぎない。

ならば対象を指し示す名詞と対象間の関係を指し示す動詞のプロトタイプは何か。対象と対象間の関係、そのプロトタイプは、数学、圏論の言う対象と対象間の関係すなわち射、対象と射と考えることが出来るのではないか。これが僕のオリジナルな発想だ。このアイデアに基づいて、経済現象、社会現象、宗教現象、芸術現象を数理で考えて来たのが僕の42年間だ。

私が感覚像を創造することと私が感覚像に享樂すること、私と感覚像という対象と、創造すると享樂するという射は数理でどう考えられるか。私を楕円曲線（平面上の3次曲線）、感覚像を複素トーラス（ドーナツのような図形）と考えると、私が感覚像を創造することは、楕円曲線から複素トーラスへの射としての楕円積分、私が感覚像に享樂することは、複素トーラスから楕円曲線への逆射としての楕円関数と考えられる。

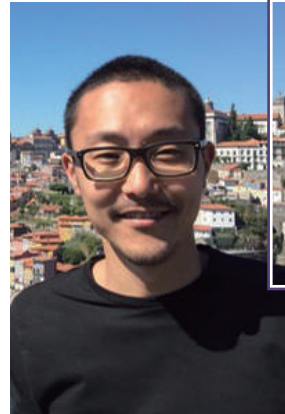
芸術を創造し美に享樂する極私的な体験は、楕円積分と楕円関数という射と逆射として思考される。だからどうしたと思われる向きもあるかも知れないが、日常言語で記述される経験が数理言語で表現し直される、それが思考するという出来事の一つの在り方だと思うのだがどうだろうか。



新任の先生からのご挨拶

Greeting

岩澤 政宗



2023年4月より同志社大学経済学部に着任いたしました、岩澤政宗と申します。同志社大学経済学部にて研究・教育に携われることを大変うれしく思います。私の専門は統計学・計量経済学です。データを分析するための統計的な手法について、それらの理論的な性質を明らかにすることを目的とした研究をしています。2023年度は、学部科目の計量経済学1と計量経済学2、及び、大学院科目の計量経済実習1と計量経済実習2を担当しました。微力ではありますが、同志社大学での活動を通して社会に貢献できるよう努めていきたいと考えております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

小暮 憲吾



みなさん、初めまして。昨年度より、本学経済学部の助教として着任させていただきました、小暮と申します。私の研究テーマは「技術進歩(AI化)がもたらす社会的変容と多様性」です。現代社会において急速に進む技術の進歩が、私たちの生活や社会構造に与える影響について深く理解し、議論していくことが重要だと考えています。本年度担当させていただく科目は、「基礎演習」、「2年次演習(プレゼミナール)」です。これらの科目を通じて、皆さんが専門的な知識を身につけるとともに、実社会での問題解決能力やクリティカルシンキングを養うお手伝いできればと思っています。私は駆け出しの研究者ですので、皆さんとの対話を通じて共に成長していけるように、日々精進したいと思います。一緒に学問の時間を過ごしましょう。よろしくお願いいたします。

法雲 俊栄



はじめまして、滋賀県米原市出身の法雲俊栄と申します。本学部では、データ処理基礎論を中心に経済学部の情報科目を担当させていただいております。これまで、大学の文系学部で情報教育に携わり、企業組織における情報システムについて研究を行って参りました。

同志社大学では、創立者の思いが学生や教職員の中に息づいており、色褪せない組織風土をキャンパス内で日々感じております。そして、伝統ある経済学部にご縁をいただき感謝しております。

これから、情報技術からみた経済学の魅力を学生方には提供するとともに、研究・教育の成果を社会に還元していきたいと考えております。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

佐藤 敦紘



実は同経会報に新任の挨拶を寄稿するのは2度目です。

本学は私の母校であり、かつて任期付助教としてお世話になりました。その後北海道の大学に移籍し、昨年9月に京都へ戻ってまいりました。今回の寄稿にあたって助教時代の紹介文を読み返してみると、そこには限られた時間制約の中で木と森どちらも見たバランスの取れた研究教育生活を送りたいという、駆け出しの頃の私が目指す学者像が書かれていました。月日とともに制約は厳しくなり、トレードオフに直面する機会も増えてきました。が、初心を忘れることなく歩を進めてまいります。また、離れたことで気づいた本学の素晴らしさを共有しながら、みなさまと協力して経済学部の発展に寄与していきたいと考えております。



2023年度
定時総会報告

物故者追悼

名誉教授	星名 倫 先生	名誉顧問	辻本 光彦 様(S25卒)
教授	佐竹 光彦 先生	名誉顧問	川勝 泰司 様(S28卒)
特別客員教授	二神 孝一 先生	名誉顧問	中野 淑夫 様(S32卒)
		執行理事	辻川 茂樹 様(S42卒)
		執行理事	岸田 博 様(S50卒)
			田島 和憲 様(S45卒)

2023年 定時総会 議案

第1号議案	2022年度活動報告並びに決算報告
第2号議案	2023年度活動計画並びに予算案
第3号議案	終身会費積立金の使途計画予算案
第4号議案	役員改選について
第5号議案	その他

同志社大学経済学部 同経会

2022年度 活動報告

同経会のビジョン 1/2

「より良い同経会
魅力ある同経会
を目指すために」

同経会のビジョン 2/2

以下のような“ありたい姿”を目指したい

1. 経済学部(含む学部生)との関係を強化し、貢献を加速することにより、更なる信頼関係が構築している
2. 卒業生の気付きを高めてもらえる様々な企画や情報発信を行うことにより、卒業生とのアクセス、コミュニケーションが向上している
3. 親睦の意義は十分に理解しつつ、全ての卒業生にとってメリットを感じてもらえる活動により、同経会の価値が向上している



結果として同経会の会員数は増加に転じている

そのために私達 執行メンバーが実行すること

- ① 成り行きではなく、必要な活動が出来る財源を確保する
- ② 卒業生の情報収集、データ解析、発信の仕方を見直す
- ③ 卒業生に参加したいと思っただけの連続的な多くの企画を提供する
- ④ 若手リーダーを中心とした従来の慣習に捕われない組織運営を目指す

主な計数 TOPICS 2022

同経会会員数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2,176名 ⇒ 2,616名(440人増加) (2023年5月10日現在) ・ 中期目標は5,000名
委員長会議開催	<ul style="list-style-type: none"> ・ メンバー全員が出席して毎回開催した(12回開催)
財務基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広告宣伝募集、寄付募集などで総額300万円の増収を実現した ・ 会員増により約70万円の増収を実現した
情報発信強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNSを立ち上げ約300名のフォロワー(2023年4月現在)となる ・ 当面の目標は1,000人のフォロワーの実現
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部卒業生約31,000人に対してチラシを送付し認知、入会活動を促進した
同経会賞充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の「同経会賞」に加え「アカデミア賞」「スポーツ賞」を新設した ・ 同経会賞の記念品の充実も実施した(10万円相当の懐中時計を復活) ・ 同経会賞5名、アカデミア賞 12名、スポーツ賞 14名の表彰を行った
卒業記念品充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 銀のスプーンに変更し、800名の卒業生に配布した ・ 従来の350円(オリジナルクリアファイル)から1,000円の記念品に改善
OB/OG貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同経会主催(樹徳会、政法会協賛)でビジネス交流会を10月に開催した ・ 同業種、同業界の同志社人の先輩、後輩の交流実現 ・ 定員(80名)を超える若手OG/OGの参加をえて大盛況

2022年度 事業報告

<大学への貢献活動>

「学生プロジェクト」の支援

4社(福寿園、フクナガ(リプトン)、マールブランシュ、松栄堂)
70名の学部生参画Win-Winの成果を実現

「同経会賞」の充実

「同経会賞」に加え「**アカデミア賞**」「**スポーツ賞**」
記念品の充実(10万円の懐中時計を復活)
同経会賞5名、アカデミア賞12名、スポーツ賞14名

卒業記念品の見直し
銀のスプーンに変更

海外インターンシップ
コロナで延期 2023年再開

<OB・OGへの貢献活動>

総会

2022年7月9日(土)80名出席 講師:坂田好弘

支部新設活動

大阪支部、東海支部 魅力のある企画、集客

しめた会

新たな組織運営活動を開始(全国のOB・OGへ)
京都を基盤として計画立案し推進

ビジネス交流会

2022年10月1日大阪市内若手約90名参加
同業界、同業種での交流が実現

卒業生への情報発信

校友課情報を活用し約31,000人の卒業生へチ
ラシ発送
メールアドレスの入手、デジタル情報交換へ転換

2022年度 事業報告

<情報発信活動の強化>

ホームページの改修
 発信力の強化、アクセス数の増加

Facebookの立ち上げ
 フォロワーは300名で徐々に拡大中
 中期目標 1,000人

卒業生への情報発信
 校友課の情報を活用して卒業生31,000人にチラシを配布
 同経会の活動及び入会案内

同経会報の発行
 2022年4月に郵送
 設立60周年記念 千玄室大宗匠特別インタビュー

<財務基盤強化>

財務基盤強化(会員増強)
 会員増加による収益拡大 約70万円

財務基盤強化(広告収入)
 会報広告掲載 約40万円
 広告収益は会報発行費用の補填に活用

財務基盤の強化(寄付)
 名誉顧問の方々より寄付 260万円
 学部、学部生への貢献活動、支部組織強化へ

成り行き予算からの脱却
 あるべき姿、ありたい姿を目指す

2022年度活動のクリティーク(次年度への課題)

- ◆大学への貢献活動
 - ・貢献する企画の充実、増強が更に必要
 - ・ゼミとの関係強化が不十分
(同経会賞の認知浸透活動が必要)
- ◆OB・OGへの貢献活動
 - ・会員数は増加するも中期目標には大幅未達
(約3万人の卒業生への配信を継続する)
 - ・各地域での魅力ある企画立案、開催の強化が必要
(専門家の人材発掘による強化)
- ◆財務基盤の強化
 - ・紙媒体からデジタルへの移行によるコスト削減
(同経会報のWeb配信件数の増強)
 - ・同経会報の発行費用の補填(名刺広告)が不十分
(企業広告の募集導入)

2022年決算及び2023年予算

		(単位:円)			(単位:円)			
項目		2022年度 予算(A)	2022年度 決算(B)	差額(B)-(A)	主な差異要因	2023年度 予算案(C)	対2022年度 予算比(C)-(A)	主な差異要因
1	前年度繰越金	12,005,425	12,005,425	0		13,370,018	1,364,593	
2	入会金	11,250,000	12,315,000	1,065,000		11,250,000	0	※15千円×150人見込
3	寄付金	0	2,100,000	2,100,000		1,000,000	1,000,000	寄付の継続募集
4	広告掲載料 ホームページ	200,000	90,000	-110,000		200,000	0	
5	広告掲載料 会報名刺		340,000	340,000		700,000	700,000	会報への広告掲載継続募集
6	預金利息	112	113	1		113	1	
7	終身会費積立金より繰入			0		4,400,000	4,400,000	
8	終身会費運用益	213,284	213,284	0		213,284	0	
9	当年度収入計(1)	11,663,396	15,058,397	3,395,001		17,763,397	6,100,001	
10	合 計	23,668,821	27,063,822	3,395,001		31,133,415	7,464,594	
11	企画委員会関係費	550,000	39,782	-510,218		550,000	0	学生P300千円、留学生イベント200千円
12	広報・会報関係費	4,200,000	1,517,950	-2,682,050	番号の発行が1月(翌期)にずれ込み	4,200,000	0	2022年度春号の発行が2023年度にずれ込み
13	ホームページ関係費	500,000	638,000	138,000		500,000	0	
14	総務委員会関係費	1,000,000	4,982,155	3,982,155	卒業生への案内、卒業記念品変更	5,000,000	4,000,000	卒業生への案内、卒業記念品変更
15	地区プロジェクト補助費	900,000	210,552	-689,448	地区ついで開催	1,000,000	100,000	活動強化
16	支 了めた会関係費	200,000	0	-200,000	了めた会開催	200,000	0	
17	学補助金	400,000	400,000	0		400,000	0	
18	出 会議費	150,000	222,876	72,876		150,000	0	
19	人件費	3,400,000	3,471,775	71,775		3,400,000	0	
20	の 旅費・交通費	200,000	481,922	281,922		200,000	0	
21	通信費	600,000	333,405	-266,595		600,000	0	
22	印刷費	300,000	128,051	-171,949		300,000	0	
23	交際費	60,000	57,300	-2,700		60,000	0	
24	事務費	270,000	233,906	-36,094		80,000	-190,000	前年事務所で買替
25	雑費	35,000	26,690	-8,310		35,000	0	
26	福利厚生費	600,000	579,840	-20,160		600,000	0	
27	名簿管理運営費	530,000	369,600	-160,400		370,000	-160,000	
28	当年度収支合計(2)	13,895,000	13,693,804	-201,196		17,645,000	3,750,000	
29	当年度収支差額(1)-(2)	-2,231,604	1,364,593	3,596,197		118,397	2,350,001	
30	次年度繰越金	9,773,821	13,370,018	3,596,197		13,488,415	3,714,594	
31	合 計	23,668,821	27,063,822	3,395,001		31,133,415	7,464,594	

第1号議案、第2号議案

2022年決算及び2023年予算

終身会費 (単位:円)				2023年度 (単位:円)			
項目	2022年度 予算(A)	2022年度 決算(B)	差額(B)-(A)	主な差異要因	2023年度 予算案(C)	対2022年度 予算比(C)-(A)	主な増減要因
前年度繰越金	74,027,162	74,027,162	0		74,657,162	630,000	
収入							
終身WJ会費	15,000	630,000	615,000		700,000	685,000	会員増加活動強化
終身会費運用益*1	213,284	213,284	0		213,284	0	
の							
預金利息*2	112	113	1		113	1	
部							
当年度収入合計(1)	228,396	843,397	615,001		913,397	685,001	
6							
合計	74,255,558	74,870,559	615,001		75,570,559	1,315,001	
7							
事業支出(使途計画案参照)	0	0	0		4,400,000	4,400,000	
8							
経常費へ振替*1	213,284	213,284	0		213,284	0	
9							
経常費へ振替*2	112	113	1		113	1	
10							
当年度支出合計(2)	213,396	213,397	1		4,613,397	4,400,001	
11							
当年度収支差額(1)-(2)	15,000	630,000	615,000		-3,700,000	-3,715,000	
12							
次年度繰越金	74,042,162	74,657,162	615,000		70,957,162	-3,085,000	
13							
合計	74,255,558	74,870,559	615,001		75,570,559	1,315,001	

国際交流支援基金 (単位:円)				2023年度 (単位:円)			
項目	2022年度 予算(A)	2022年度 決算(B)	差額(B)-(A)	主な差異要因	2023年度 予算案(C)	対2022年度 予算比(C)-(A)	主な増減要因
前年度繰越金	1,898,663	1,898,663	0		1,898,663	0	
2							
海外インターンシップ事業	0	0	0		1,000,000	1,000,000	
3							
次年度繰越金	1,898,663	1,898,663	0		898,663	-1,000,000	

第1号議案、第2号議案

2022年決算及び2023年予算

2023年 3月31日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金預金	30,378,872	終身会費積立金	74,657,162
有価証券	51,149,918	退職給与積立金	2,500,000
預け金	10,897,053	国際交流支援基金	1,898,663
		次期繰越金	13,370,018
合計	92,425,843	合計	92,425,843

《内訳》

◆ 現金預金				
みずほ銀行	出町支店	(経常勘定口)	普通預金	5,339,327
"	"	(終身勘定口)	普通預金	12,479,610
"	"	(終身勘定口)	定期預金	1,000,000
ゆうちょ銀行	京都室町上立売郵便局	振替口座	(会費入金)	4,619,567
ゆうちょ銀行	京都室町上立売郵便局	振替口座	(その他入金)	6,642,752
小口現金		事務局金庫		297,616
		合計		30,378,872
◆ 有価証券				
SMBc日興証券	広島市公債券	(終身勘定口)		10,000,000
	北海道公債券	(終身勘定口)		10,000,000
	利付国債(10年) 第336回	(終身勘定口)		10,149,918
		合計		30,149,918
野村證券	広島県公債券	(終身勘定口)		21,000,000
		合計		21,000,000
		有価証券合計		51,149,918
◆ 預け金				
		入会金(大学経理課)		10,897,053

第1号議案、第2号議案

2022年決算 監査報告

監査報告書

同志社大学経済学部同経会

会 長 田 堂 哲 志 殿

私は同経会2022年度
(自2022年4月1日 至2023年3月31日)
の決算にかかる諸帳簿及び証憑書類を、監査しましたところ
正確適正に表示されていることを認め、ここに報告いたします。

2023年 5月 12日

監 事 小 杉 將 之

監 事 横 田 聡

第2号議案

同志社大学経済学部 同経会

2023年度 活動計画

第2号議案

スローガン

いかなる組織といえども
課題が存在しない組織はない

その課題を真摯に受け取め
克服し且つ継続して実践することで

初めてその組織が存在する
目標を全うすることになる

第2号議案

同経会のビジョン

「より良い同経会

魅力ある同経会

それを継続する同経会

を目指すために」

2023年度 事業計画

<大学への貢献活動>

学生プロジェクトの支援

今期から同経会独自企画として推進
予算設定し金銭的なサポートも

学生支援制度の設定

困窮学生などを対象に支援する制度の検討

「同経会賞」の充実

新たな同経会賞の認知度、応募数の向上
ゼミ教室での表彰の実現に向けた働きかけ

新たな企画提案の基盤強化

人材バンクの開設

海外インターンシップ

今期から開催

<OB・OGへの貢献活動>

総会

2023年7月8日(土) 講師:村田元学長
2024年 ホームカミングデーに合わせて開催

支部活動

大阪支部総会 2023年 5月11日(木)世耕石弘氏
東海支部総会 2023年 9月 9日(土)中西哲生氏
東京支部つどい2023年11月15日(水)林 敏之氏

しめた会

2023年9月9日(土)(全国のOB・OGへ)

ビジネス交流会

継続開催 3学部共催 9月30日予定

ゴルフコンペ

第2回大阪3学部OB対抗 6月17日(土)
大阪支部親睦 12月頃開催予定

2023年度 事業計画

<情報発信活動の強化>

ホームページの内容充実

「同経会の広場」を開設(双方向コミュニケーション)

Facebookの内容充実

フォロワー拡大の施策の立案、実行
中期目標 1,000人

卒業生への情報発信と入会募集

卒業生31,000人にチラシを配布
メールアドレス判明約8,000人への配信

同経会報の発行

2023年4月に発行

<財務基盤強化>

財務基盤強化(会員増強)

会員増加による収益拡大 目標 70万円

財務基盤強化(広告収入)

会報広告掲載継続募集 目標 70万円

財務基盤の強化(寄付)

名誉顧問を主体に継続募集 目標 100万円

紙媒体からデジタル(Web)への転換

会報等の通信費をデジタル活用で低減
目標 50万円

2023年度 事業計画

<組織・活動強化予算編成>

組織基盤強化

支部活動支援金の増強 100万円

大学への講演活動強化

学生プロジェクト 50万円
同経会賞、アカデミア賞、スポーツ賞 100万円
卒業記念品の見直し 100万円

会員増強活動強化

大学名簿を利用した卒業生への案内 300万円

<寄付の使途について>

名誉顧問等よりのご寄付金額 260万円

使途の基本方針

- ・大学への貢献活動の強化資金
学生プロジェクトの強化
海外インターンシップの継続
学生支援制度の設定
- ・OB・OGへの貢献活動の強化資金
各支部の創設、支部活動強化
大学名簿を活用し卒業生への継続的情報提供
- ・長期的な財源の減少補填
継続的、活発な活動維持のための財源へ充当

第3号議案

終身会費積立金の使途計画予算案

		2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度	2032年度
1 終身会費積立金残高	74,000,000										
2 使途計画予算	44,000,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000	4,400,000
①寄付講座 5万円×8口座×10年	4,000,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
②資格取得支援 4万円×10名×10年	4,000,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000	400,000
③学部生と企業との交流機会の提供 25万円×1件×10年	2,500,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
④ビジネス交流会の開催 20万円×3回×10年	6,000,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000
⑤支部活動活性化支援（支部設立費用） 20万円×5地区×10年	10,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
⑥国内外インターンシップ支援 15万円×5人×10年	7,500,000	750,000	750,000	750,000	750,000	750,000	750,000	750,000	750,000	750,000	750,000
⑦就職活動支援 10万円×2回×10年	2,000,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
⑧若年層対象ビジネス交流会基金 50万円/年×10年	5,000,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
⑨経済学部への貢献活動	3,000,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
3 差引残高	30,000,000	69,600,000	65,200,000	60,800,000	56,400,000	52,000,000	47,600,000	43,200,000	38,800,000	34,400,000	30,000,000
内訳 留保金	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000
次年度繰越金	0	39,600,000	35,200,000	30,800,000	26,400,000	22,000,000	17,600,000	13,200,000	8,800,000	4,400,000	0

第4号議案

役員改選について

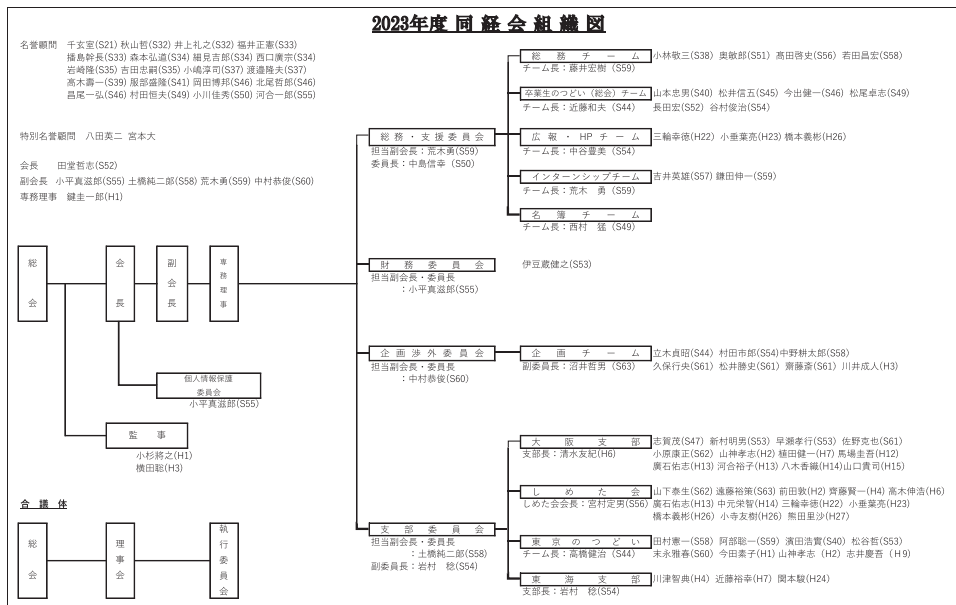
2023年度 役員追加選任

大阪支部 河合 裕子 (2001年(H13)卒)

東海支部 岡 洋文 (2013年(H25)卒)

今村 浩一 (1982年(S57)卒)

2023年度 同経会組織図



企業広告 名刺広告

同経会報90号(今回発行)から企業広告の掲載をスタートしました。また、前号に続き名刺広告も掲載いたします(役員名簿順)。

ご協力いただきました企業様および同経会役員の皆様、誠にありがとうございます。ここに改めて厚く御礼申し上げます。ご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



パソコンの中にも
最大 **600** 個*



スマートフォンの中にも
最大 **1,000** 個*



こんな身近なところに、
あった! あった!



テレビの中にも
最大 **500** 個*



電気自動車の中にも
最大 **5,000** 個*

※高機能機種の一例(当社調べ)

ブランドサイトはこちら



世界は、
無数の部品で動いている。



中から、世界をよくしよう。

実は、電気で動くモノのほとんどにムラタの部品が使われています。
たとえば、スマートフォンには最大1,000個。テレビには500個。
パソコンには600個。電気自動車には、5,000個も!
ひとつひとつは、とっても小さな部品ですが、みんなの身近な暮らしを
大いに支えています。しかも、部品は小さくなればなるほど、
省資源・省エネルギーに貢献。暮らしに役立ち、地球にもやさしい村田製作所です。

muRata

村田製作所



すし・和食・お集まり

こころに響くおもてなし

季節を映す旬の逸材を手間ひま惜しまず
こころ入れの料理と酒でおもてなし

神戸・大阪・京都・奈良・和歌山・東京 —— がんこグループ

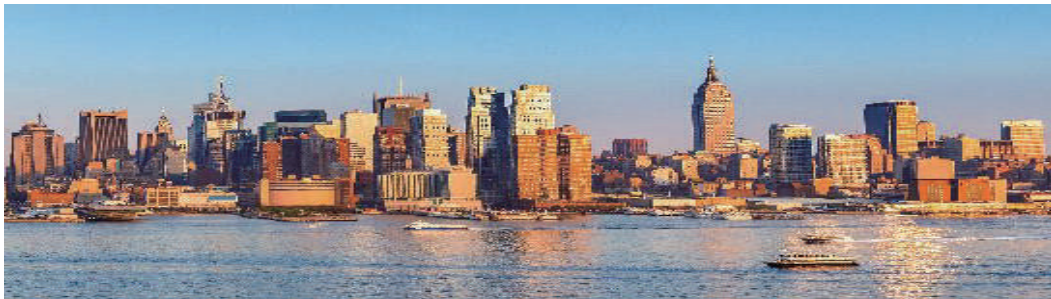
ご予約承り中

がんこフードサービス株式会社 / TEL. (06) 6308-2288
〒532-0021 大阪市淀川区田川北1-4-23



株式会社 DEN

グローバルコンサルティング会社



世界基準の経営革新をご提案
あらゆる経営課題にお答えします

代表取締役
田堂 哲志

tado@shilosolution.jp
大阪市北区豊崎 3-16-16-1914号

土橋労働管理事務所
DOBASHI LABOR AND SOCIAL SECURITY ATTORNEY OFFICE

所長 特定社会保険労務士 **土橋 純二郎**

〒540-0031 大阪市中央区北浜東6番6号 アクアタワー4F
電話 06-4397-3630(代) FAX 06-4397-3631
E-mail: jdobasi@arion.ocn.ne.jp
www.dobashi-roumu.gr.jp



NISHIJIN TEXTILE
ORISHO KOHIRA CO.,LTD.

代表取締役社長 **小平 真滋郎**
KOHIRA SHINJIRO


西陣特選帯地
有限会社 **織匠小平**
〒603-8445
京都市北区鷹峯藤林町 6-322 TEL.075-492-4043 内 FAX 075-491-0110
g-mail shinjiro16k@gmail.com

PwC Japan有限責任監査法人
〒600-8008
京都府京都市下京区四条通烏丸東入ル
京都三井ビル 7F
携帯 080 5761 4140
FAX 075 241 1902
keiichiro.k.kagi@pwc.com



鍵 圭一郎
公認会計士
パートナー
執行役代表代行

総合建設業(一般建築・社寺・数寄屋建築)

 株式会社 **アラキ工務店**
一級建築士事務所



代表取締役 **荒 木 勇**

〒615-0906 京都市右京区梅津高畝町52-2
tel: 075-882-8668
fax: 075-872-0223
mail: i-araki@kyoto.zaq.jp
URL: https://www.kyoto-araki.jp/

株式会社 **公益社**
取締役会長 **松 井 信 五**

本社 京都市中央区錦九通六角ビル
〒604-8461
TEL 075(75)1114000(代)
役員室 075(75)1117700
FAX 075(75)1114020

 株式会社 **京進**

代表取締役会長
立木 貞昭
Tachiki Sadaaki

社会福祉法人こころざし理事長
社団法人 国際教育文化医療交流機構理事長
中国・清華大学政治経済学研究中心一顧問
中国・貴州大学客員教授・宜春大学名誉教授

〒600-8177
京都市下京区烏丸通五条下る
大坂町382-1
TEL.075-365-1500 (代表)
FAX.075-365-1521
東証スタンダード: 4735




 the exciting business consulting

代表
萱原 昇
 Noboru Kayahara
株式会社 インサイト
 ワクコンサルティング株式会社 顧問
 製造業コンサル及び研修サービス
 株式会社ソフトロード 顧問
 情報システムのリフォームサービス
 他
 名古屋市中区栄3丁目2番3号
 名古屋日興證券ビル4階 〒460-0008
 Mobile 09032554776
 Email kayahara@insight-corp.org


 おかげさまで
 60周年

特別顧問
志賀 茂
 がんこフードサービス株式会社

〒532-0021 大阪市淀川区田川北1-4-23
 F T 大
 A E 阪
 X L 市
 0 0 淀
 6 6 川
 6 6 区
 3 3 田
 0 0 川
 8 8 北
 2 2 1
 7 7 4
 5 5 8
 9 9 2 3

E-Mail s-shiga@gankofood.co.jp



明治30年創刊 宗教専門紙

中外日報社

購読・読者紹介
 キャンペーン実施中
 ☎0120-015-177

財務委員
中島 信幸
 京都本社 〒601-8004 京都市南区東九条東山王町9番地
 TEL 075-682-3351 FAX 075-671-2103
 E-mail: keiri@chugainippoh.co.jp

 東京支社 〒113-0033 東京都文京区本郷4丁目9番13号
 TEL 03-3816-4721代 FAX 03-3811-5222
<https://www.chugainippoh.co.jp>

西村公認会計士事務所
 NISHIMURA C.P.A. OFFICE

公認会計士 / 税理士
西 村 猛

〒604-8175
 京都市中京区室町御池下ル田福寺町342-1
 VOICE21ビル303号
 TEL 075-708-8147 FAX 075-708-8767
 携帯 090-3926-4781
 E-mail nishitake@soleil.ocn.ne.jp

代表取締役
伊豆蔵 健之
 IZUKURA TAKESHI

〒602-0953
 京都市上京区油小路通一条ニル元百万遍町556
 TEL (075) 415-2555 FAX (075) 415-2444
 E-mail ky@kyougei.co.jp

株式会社 京藝


 HEARTY WARES & PLANNING

服飾雑貨・袋物製造販売
<https://shuwa.jp>

代表取締役 **奥 敏郎**
 OKU TOSHIO



秀和株式会社
 〒606-8392
 京都市左京区聖護院山王町28-29
 TEL: 075-751-0086 (代表) FAX: 075-752-1164
 E-mail: oku@shuwa.jp



中
谷
(宗 豊美)

〒606-8130
京都市左京区吉田泉殿町四七
TEL/FAX 075-761-2925

 同志社大学経済学部 同経会

東海支部長
執行理事 岩村 稔

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学経済学部事務室内
TEL: 075-251-3524 FAX: 075-251-3136
携帯: 090-1284-6501 E-mail: iwachan26de@gmail.com

 同志社大学経済学部 同経会

執行理事 今村 浩一

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学経済学部事務室内
自 宅: 〒444-0128 愛知県額田郡幸田町大字野場字白石30番地
TEL: 080-3622-4480 E-mail: lisa@cf6.so-net.ne.jp

 京都フィナンシャルグループ

京銀カードサービス株式会社

代表取締役
カード事業部長
宮村 定男

〒600-8216
京都市下京区烏丸通七条下る
東塩小路町731番地 京都銀行京都駅前ビル
Tel: (075)344-2211 Fax: (075)344-2545
E-mail: sa_miyamura@kyotojcb.jp


1875-2025 ANNIVERSARY

事務長
鎌田 伸一

同志社中学校・高等学校

〒606-8558
京都市左京区岩倉大鷲町 89
TEL 075-781-7121
FAX 075-781-7124
E-mail scene-1@js.doshisha.ac.jp

執行役員常務
新事業企画室 室長
公益社団法人
日本証券アナリスト協会認定アナリスト

田村 憲一

株式会社東京精密

〒192-8515 東京都八王子市石川町2968-2
Tel. 042-642-1701 Fax. 042-642-1798
携帯. 070-3191-4683
E-mail. kenichi.tamura@accretech.com
URL. https://www.accretech.jp


WIN-WIN RELATIONSHIPS
CREATE THE WORLD'S No.1 PRODUCTS

HORIBA

OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO 2025

コーポレートオフィサー
管理本部長

山下 泰生

株式会社堀場製作所
〒601-8510 京都市南区吉祥院宮の東町2番地
TEL.075-325-5006 (直通) TEL.075-313-8121 (代表)
FAX.075-321-8312
E-mail: yasuo.yamashita@horiba.com
https://www.horiba.co.jp

Automotive | Process & Environmental | Medical | Semiconductor | Scientific

Explore the future **HORIBA**

PASONA
日本総務部

佐野 克也
代表取締役社長

株式会社パソナ日本総務部
大阪市中央区北浜東4番33号
北浜ネクスビル
〒540-0031
Tel 06 6910 1380
ksano@pasona-ns.co.jp
www.pasona-ns.co.jp

OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO 2025

株式会社 齊藤 総研
齊藤賢一公認会計士事務所
齊藤賢一 税理士事務所

公認会計士 齊藤 賢一
税理士

〒600-8035 京都市下京区寺町通高辻下ル京極町488
More河原町1号館 201号
TEL 080-5352-0594
E-mail: kenichi.saito@sage.ocn.ne.jp

MEITETSU ココロをつなぐ、あしたへはこぼ。

いつものお出かけが
もっと楽しくなるMaaSアプリ

執行役員
財務部長
川津 智典

名古屋鉄道株式会社
名古屋市中村区名駅1-2-4 〒450-8501
TEL: 052-588-0820 FAX: 052-588-0823
E-mail: tomonori.kawatsu@nrr.meitetsu.co.jp
https://top.meitetsu.co.jp/

CentX
ダウンロードは
こちらから

いづのりの里づくり **さいと**
株式会社 彩里

不動産売買仲介
既存住宅の再生利活用
相続コンサルティング・農業事業

代表取締役社長
三輪 幸徳
YUKINORI MIWA

宅地建物取引士/賃貸不動産経営管理士
公認不動産コンサルティングマスター
2級FP技能士/国内旅行業務取扱管理者
福祉住環境コーディネーター2級
同志社大学経済学部卒業。保険・建築営業
を経て、2児の子育て奮闘中です。

〒616-8352 京都市右京区嵯峨大沢落久保町5番地1
きぬかけの道(一条通)面す 広沢池西へ
E-MAIL miwa.yukinori@saito-kyoto.com
TEL 075-432-7655 FAX 075-432-7835 MOBILE 080-3813-5523

THE MITSUBOSHI LAW FIRM 法律事務所 三ツ星

弁護士・税理士・中小企業診断士
廣石 佑志
Yuji Hiroishi

hiroishi@mitsuboshi-law.jp
陸上自衛隊予備3位(予備自衛官)
経営心理士/公認不正検査士

法律事務所 三ツ星
OSAKA OFFICE
Tel. 06-6222-3035 Fax. 06-6222-3036
TOKYO OFFICE
Tel. 03-4361-1922 Fax. 03-4333-0748
www.mitsuboshi-law.jp



不動産 売買・仲介・管理
有限会社 いい京都

執行役員 橋本義彬
宅地建物取引士

〒604-8313
京都市中京区猪熊通御池下ル三坊猪熊町北組373-1
TEL (075)812-3000 FAX (075)812-3055
☎ 0120-84-5252 携帯 090-1712-3731
E-mail : y.hashimoto@ii-kyoto.com

今日唐御家元御用命

茶道美術

株式会社 玉栄タカギ

高木修

(全) 京都市上京区馬光通鞍馬口下ル東入ル北側
電話 075-143-1140 096
FAX 075-143-1158
(自) 〒602-0894 京都市上京区馬光通鞍馬口下ル東入ル南側
電話 075-144-1151 093

寄付へのお礼とご報告

同経会では経済学部並びに経済学部在学学生への貢献と、卒業生のメリットとなる企画を立案し、実践すべく活動の一層の強化を目指しております。この活動の基盤となる同経会の財務基盤強化を図る目的に寄付をお願いしましたところ、多くの同経会役員の皆様のご理解とご賛同を頂戴し、総額390万円のご寄付を賜りました。ここに心よりお礼を申し上げますと共に、会員の皆様にご報告申し上げます。なお、寄付につきましては、募集期間を設けず受け付けております。よろしくご協力賜りますようお願い申し上げます。

2022年度寄付

昭和33年卒業	名誉顧問	播島 幹長様	1,000,000円
昭和52年卒業	会 長	田堂 哲志様	200,000円
昭和34年卒業	名誉顧問	森本 弘道様	150,000円
昭和34年卒業	名誉顧問	細見 吉郎様	50,000円
昭和37年卒業	名誉顧問	渡邊 隆夫様	50,000円

ご芳名のみ

昭和21年卒業	名誉顧問	千 玄室様
昭和32年卒業	名誉顧問	井上 礼之様
昭和33年卒業	名誉顧問	福井 正憲様

匿名 50,000円 1件

2023年度寄付

昭和55年卒業	名誉顧問	河合 一郎様	500,000円
昭和52年卒業	会 長	田堂 哲志様	200,000円
昭和44年卒業	理 事	高橋 修様	200,000円
昭和46年卒業	名誉顧問	北尾 哲郎様	100,000円
昭和58年卒業	副 会 長	土橋純二郎様	100,000円
昭和44年卒業	執行理事	立木 貞昭様	100,000円
昭和57年卒業	執行理事	今村 浩一様	100,000円
昭和61年卒業	執行理事	齋藤 斎様	100,000円
昭和32年卒業	名誉顧問	井上 礼之様	50,000円
昭和39年卒業	名誉顧問	高木 壽一様	50,000円
昭和38年卒業	理 事	橋本 久幸様	50,000円
昭和47年卒業	執行理事	志賀 茂様	50,000円
昭和52年卒業	執行理事	神山 研一様	50,000円
昭和58年卒業	執行理事	田村 憲一様	50,000円
昭和62年卒業	執行理事	山下 泰生様	50,000円

ご芳名のみ

昭和45年卒業	執行理事	松井 信五様
---------	------	--------



2024年6月～11月に同経会では下記イベントの開催を予定しております。同経会員の皆様、是非ご参加ください！

Information

2024年6月～11月の イベント案内

■ しめた会ゴルフコンペ

日時 6月1日(土) 7:50までに現地集合 会費 14,000円 (昼食代、コンペ代含む)

場所 ダイヤモンド滋賀カントリークラブ

お問い合わせ先 しめた会会長 宮村定男 stmiyamura386@ybb.ne.jp 090-8937-1397

■ 2024年度同経会理事会 (役員のみ参加可)

日時 6月7日(金) 18:00～21:00

場所 からすま京都ホテル

■ 2024年度東海支部総会 (第1部 総会 第2部 講演会 第3部 懇親会)

日時 7月20日(土) 11:00～13:30 会費 8,000円 (卒業3年目まで 3,000円)

場所 名鉄グランドホテル 講師 横井和彦氏 (同志社大学経済学部長)

お問い合わせ先 関本 駿 shun_sekimoto@puc.aichi-pu.ac.jp

■ 第8回しめた会 (第1部 講演会 第2部 懇親会)

日時 7月27日(土) 16:00~19:45

会費 5,000円 (学生 3,000円)

場所 からすま京都ホテル

講師 野村正樹氏 (株ローバー都市建築事務所 代表取締役)

お問い合わせ先 しめた会会長 宮村定男 stmiyamura386@ybb.ne.jp 090-8937-1397

■ 2024年度東京支部のつどい

日時 10月3日(木) 18:30~21:00

ゲスト講師 同志社大学グローバル・スタディーズ研究科
三牧聖子准教授

場所 内幸町 日本記者クラブ

会費 5,000円

講演内容 米大統領選挙を前にして 米国政治外交ご専門
の三牧先生にご講演いただきます。

お問い合わせ先 同経会東京支部 田村憲一 kenichi.tamura@accretech.com

■ 2024年度同経会総会・卒業生のつどい (第1部 総会 第2部 講演会 第3部 懇親会)

日時 11月9日(土) 17:00~総会受付

場所 ホテルオークラ京都

※詳細スケジュールは後日ご案内

講演会

講師 宮本恒靖氏 (2001年経済学部卒)
公益財団法人日本サッカー協会 会長

《講師プロフィール》

大阪府富田林市出身、小学校5年生よりサッカーを始める。生野高校時代はガンバ大阪ユースに所属、1995年よりガンバ大阪でプレーする傍ら同志社大学経済学部に進学。日本代表として2002年日韓大会、2006年ドイツ大会とワールドカップに2大会連続で出場しキャプテンも務めた。引退後はガンバ大阪の監督を経て2023年公益財団法人日本サッカー協会の専務理事、2024年3月に第15代会長に就任。47歳での会長就任は戦後最年少、元Jリーガーでワールドカップに出場経験がある人の就任は初めて。



編集後記

執行理事 広報・HPチーム 小垂葉 亮



今回のOB会報をお届けできることを心より嬉しく思います。

同志社大学経済学部を卒業された皆様のご活躍の報告や、近況を知ることが、私たちの絆を深める上で非常に重要なものです。

今日は、同志社大学の創設者である新島襄先生の教えに触れながら、

昨今の経済環境についても考えてみたいと思います。先生は常に「志を立てて、その道を進むことこそが、成功への第一歩である」と教えてくださいました。この言葉は、今日の厳しい経済状況においても、私たちにとつての指針となるべきものです。どんなに困難な状況に直面しても、自らの志を持ち、努力を惜しまず進んでいくことが、成功への道を切り拓く鍵となります。

また、世界中で続く経済の変化や課題にも目を向ける必要があります。

技術革新や国際政治の動向など、私たちが今日直面している課題は多岐にわたりますが、同志社の精神を胸に、知識と倫理観を武器にしてこれらの課題に取り組んでいくことが求められています。

皆様のご活躍を、支えることができることを心より願っております。

引き続き、同経会の活動にご参加いただき、絆を深めていけることを楽しみにしています。今後も、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

〈 同経会 公式 facebook 〉

同経会 - 同志社大学経済学部ob・og会 -

お持ちのスマートフォンのカメラで下のQRコードを読み取り、「いいね! ボタン」を押してください!
公式WEBサイトの更新情報、同経会で開催されるイベントをリアルタイムで発信・お知らせいたします!



経済学部卒業生の方は
ぜひご登録ください!

<https://www.facebook.com/dokeikai.doshisha/>

役員名簿

役名	委員会	氏名	卒業年
名誉顧問		千 玄室	昭和21年
名誉顧問		秋山 哲	昭和32年
名誉顧問		井上 礼之	昭和32年
名誉顧問		福井 正憲	昭和33年
名誉顧問		櫻島 幹長	昭和33年
名誉顧問		森本 弘道	昭和34年
名誉顧問		細見 吉郎	昭和34年
名誉顧問		西口 廣宗	昭和34年
名誉顧問		岩崎 隆	昭和35年
名誉顧問		吉田 忠嗣	昭和35年
名誉顧問		小嶋 淳司	昭和37年
名誉顧問		渡邊 隆夫	昭和37年
名誉顧問		高木 善一	昭和39年
名誉顧問		服部 盛隆	昭和41年
名誉顧問		岡田 博邦	昭和46年
名誉顧問		北尾 哲郎	昭和46年
名誉顧問		昌尾 一弘	昭和46年
名誉顧問		村田 恒夫	昭和49年
名誉顧問		小川 佳秀	昭和50年
名誉顧問		河合 一郎	昭和55年
名誉顧問		八田 英二	特別
名誉顧問		横井 和彦	特別
会長		田堂 哲志	昭和52年
副会長	財務委員会担当・委員長	小平 真滋郎	昭和55年
副会長	支部委員会担当・委員長	土橋 純二郎	昭和58年
副会長	総務支援委員会担当	荒木 勇	昭和59年
副会長	企画渉外委員会担当・委員長	中村 恭俊	昭和60年
専務理事		鍵 圭一郎	平成1年
監事		小杉 將之	平成1年
監事		横田 聡	平成3年
執行理事	支部(東京)	濱田 浩實	昭和40年
執行理事	総務支援(つどい)	山本 忠男	昭和40年
執行理事	総務支援(つどい長)	近藤 和夫	昭和44年
執行理事	支部(東京)	高橋 健治	昭和44年
執行理事	企画	立木 貞昭	昭和44年
執行理事	総務支援(つどい)	松井 信五	昭和45年
執行理事	総務支援(つどい副)	今出 健一	昭和46年
執行理事	支部(大阪)	志賀 茂	昭和47年
執行理事		萱原 昇	昭和49年
執行理事	総務支援(名簿長)(つどい)	西村 猛	昭和49年
執行理事	総務支援(つどい)	松尾 卓志	昭和49年
執行理事	総務支援委員長	中島 信幸	昭和50年
執行理事	総務支援(総務)	奥 敏郎	昭和51年
執行理事	総務支援(つどい)	長田 宏	昭和52年
執行理事	総務支援(インターンシップ)	神山 研一	昭和52年
執行理事		石塚 清司	昭和53年
執行理事	財務	伊豆蔵 健之	昭和53年
執行理事	支部(大阪副)	新村 明男	昭和53年
執行理事	支部(大阪副)	早瀬 孝行	昭和53年
執行理事	支部(副委員長・東海支部長)	岩村 稔	昭和54年
執行理事	総務支援(つどい)	谷村 俊治	昭和54年
執行理事	総務支援(広報長)	中谷 豊美	昭和54年
執行理事	企画	村田 市郎	昭和54年
執行理事	総務支援(総務)	高田 啓史	昭和56年
執行理事		牧野 正裕	昭和56年
執行理事	しめた会 会長	宮村 定男	昭和56年
執行理事	総務支援(インターンシップ)	吉井 英雄	昭和57年

役名	委員会	氏名	卒業年
執行理事	支部(東海)	今村 浩一	昭和57年
執行理事	支部(東京支部長)	田村 憲一	昭和58年
執行理事	企画	中野 耕太郎	昭和58年
執行理事	総務支援(総務)	若田 昌宏	昭和58年
執行理事	支部(東京副)	阿部 聡一	昭和59年
執行理事	総務支援(インターンシップ)	鎌田 伸一	昭和59年
執行理事	総務支援(総務長)	藤井 宏樹	昭和59年
執行理事	支部(東京)	末永 雅春	昭和60年
執行理事	企画	久保 行央	昭和61年
執行理事	企画	齋藤 齋	昭和61年
執行理事	支部(大阪)	佐野 克也	昭和61年
執行理事	企画	松井 勝史	昭和61年
執行理事	支部(大阪)	小原 康正	昭和62年
執行理事	しめた会	山下 泰生	昭和62年
執行理事	しめた会	遠藤 裕策	昭和63年
執行理事	企画(副)	沼井 哲男	昭和63年
執行理事	支部(東京)	今田 素子	平成1年
執行理事	しめた会	前田 敦	平成2年
執行理事	支部(大阪)	山神 孝志	平成2年
執行理事	企画	川井 成人	平成2年
執行理事	支部(東海)	川津 智典	平成4年
執行理事	しめた会	齊藤 賢一	平成4年
執行理事	支部(大阪支部長)	清水 友紀	平成6年
執行理事	しめた会	高木 伸浩	平成6年
執行理事		伊藤 弥生	平成7年
執行理事	支部(大阪)	植田 健一	平成7年
執行理事	支部(東海)	近藤 裕幸	平成7年
執行理事	支部(東京副)	志井 慶吾	平成9年
執行理事	支部(大阪)	馬場 圭吾	平成12年
執行理事	支部(大阪)・しめた会	廣石 佑志	平成13年
執行理事	支部(大阪)	河合 裕子	平成13年
執行理事	しめた会	中元 栄智	平成14年
執行理事	支部(大阪)	八木 香織	平成14年
執行理事	支部(大阪)	山口 貴司	平成15年
執行理事	しめた会 副会長・総務支援(HP長)	三輪 幸徳	平成22年
執行理事	しめた会・総務支援(HP)	小垂葉 亮	平成23年
執行理事	支部(東海)	関本 駿	平成24年
執行理事	支部(東海)	岡 洋文	平成25年
執行理事	しめた会・総務支援(HP)	橋本 義彬	平成26年
執行理事	しめた会	小寺 友樹	平成26年
執行理事	しめた会	熊田 里沙	平成27年
理事		橋本 久幸	昭和38年
理事		山本 清	昭和40年
理事		田島 繁	昭和41年
理事		高橋 修	昭和44年
理事		齋藤 一慶	昭和46年
理事		池田 博義	昭和46年
理事		山本 源兵衛	昭和49年
理事		山添 俊之	昭和55年
理事		大谷 淳子	平成16年
理事		鹿野 嘉昭	特別
理事		北川 雅章	特別
理事		竹廣 良司	特別
理事		新聞 三希代	特別
理事		谷村 智輝	特別
理事		角井 正幸	特別
理事		宮本 大	特別

※2024年4月1日現在

同経会報の郵送についてのご案内

平素は同経会の活動に対し格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

同経会報につきましては、一昨年より年1回の発行とさせていただいており、例年この時期に発行しております。なお、昨年に続き本年も名刺広告を掲載させていただいております。また、新たに企業広告も掲載開始いたしました。ご協力いただきました皆様にはあらためて御礼申し上げます。

同経会報は同時に同経会のホームページにおいても公開いたしております。同経会では今後、紙媒体中心の情報発信からこのホームページや同じく同経会のFacebookを活用した情報発信に注力する所存です。

つきましては、同経会として同経会報は今後、ホームページ公開へ移行する方策にあるため、会員の皆様のご希望をお尋ねいたしたく、ご案内させていただきます。

次回より、紙媒体による同経会報の郵送は不要とご了承いただける会員様につきましては、下記の通り事務局までご連絡いただきたくお願い申し上げます。また、来年度にはその逆で引き続き郵送ご希望の会員様のみご連絡いただくことでご希望を確認いたします。

なお、現在、同経会報のホームページ公開は会員様以外も閲覧可能ですが、今後、準備が整い次第、会員様限定の公開に変更する予定であります。

誠に勝手なお願いではありますが、何卒ご理解いただきご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

同経会報の郵送不要の方は、お名前、生年月日、ご卒業年、メールアドレス(同経会からの案内を受け取れるアドレス)、個人ID番号(封筒の宛名ラベルに書かれている11桁の番号)を明記の上、FAXまたはメールでご連絡をお願いいたします。

< 連絡先 > 同経会事務局

FAX:075-251-3136

メールアドレス: staff@dokeikai.com





同志社大学経済学部 同経会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL : 075-251-3524 FAX : 075-251-3136
URL : www.dokeikai.com

2024年5月 発行

編集 : 総務支援委員会 (広報・HPチーム)

発行人 : 同経会会長 田堂哲志